

「ずっと。」
人と社会を支える



溪仁会グループ

CSRLレポート2018

CORPORATE SOCIAL RESPONSIBILITY REPORT 2018

ik 溪仁会グループ

医療 溪仁会 社会福祉 溪仁会
法人 法人

株式会社ソーシャル 医療 稲生会
法人



【シンボルマークについて】

溪仁会の頭文字であるKをモチーフに、当グループの理念を表現しています。その形状は人と人の支え合いに基づいた「安心感と満足の提供」、勢いよく真っ直ぐに立ち上がるさまは「変革の精神」を表しています。ブルーのカラーリングは、「プロフェッショナル・マインド」および「信頼の確立」をひたむきに追求する、誠実さをイメージしています。



溪仁会グループ CSRレポート 2018

CORPORATE
SOCIAL RESPONSIBILITY
REPORT 2018



編集方針

溪仁会グループは、2006年から「CSRレポート」(CSR=Corporate Social Responsibility: 企業の社会的責任)を発行し、当グループの取り組みや考え方をお伝えしています。

2018年版では、社会的責任の国際規格であるISO26000を意識しながら、溪仁会グループが続けてきたCSR経営や活動を「より良いサービスのために」「地域の皆さまのために」「信頼される組織であるために」の3つのテーマで編集しています。特に今後の医療、保健、福祉を支えるべき「地域」とのかかわりを軸に、CSR活動を支える職員の姿や声を通じて、組織の現在や今後の方向性を表しています。

第三者意見は、CSR分野に詳しい東洋学園大学グローバル・コミュニケーション学部特任教授で、日本経営倫理学会理事の萩野博司氏をお願いいたしました。ご協力いただいた皆さんの声は、当グループの今後の事業の在り方や活動内容の検証に役立て、CSR活動の新たな展望につなげたいと考えています。

報告の範囲

当グループの2017年度(2017年4月～2018年3月)の活動やデータを中心に、2016年度以前や2018年度以降の活動情報も記載しています。

バックナンバーについて

「CSRレポート」のバックナンバーおよび各病院・施設・事業の実績データを収載した「年次報告書」は、当グループのWebサイト上で公開しております。URL <http://www.keijinkai.com>

次回発行について

次回CSRレポートは、2019年11月を予定しています。

●発行
医療法人溪仁会 法人本部 2018年11月

●お問い合わせ先
医療法人溪仁会 法人本部
医療福祉連携部 広報課
〒006-0811
札幌市手稲区前田1条12丁目2番30号
溪仁会ビル3F
TEL 011-699-7500 FAX 011-699-7501
E-mail editor0110@keijinkai.or.jp

C O N T E N T S

溪仁会グループの組織と事業	P04
溪仁会グループの社会的使命	P06
溪仁会グループの事業理念	P07

溪仁会グループのCSR活動

Report 2017 P08

第1章 より良いサービスのために P10

ステークホルダーダイアログ

誰もが安心して暮らし続けられる地域をめざして ～札幌溪仁会リハビリテーション病院と地域の方々との対話～ P16

第2章 地域の皆さまのために P20

環境への取り組み P28

第3章 信頼される組織であるために P30

数字で読み解く溪仁会グループ P37

TOP MESSAGE

組織の持続的成長を実現し 未来へとつながる社会を創造するために

溪仁会グループ最高責任者 医療法人溪仁会 理事長 田中 繁道 P44

第三者意見 P46

ISO26000対比表 P47

溪仁会グループマップ P48

溪仁会グループ一覧 P50

医療・保健・福祉のシームレスな

溪仁会グループは、創立以来札幌市を中心に、医療、保健、福祉の制度や地域のニーズに対応し、地域包括ケアシステム構築のために

治療とケア

乳幼児から高齢者まで、最新医療技術と機器を備え、総合医療を提供しています。

- 手稲溪仁会病院(手稲区)
- 手稲溪仁会クリニック(手稲区)
- 手稲家庭医療クリニック(手稲区)



保健

病気の早期発見、健康管理、予防に関するサービスを提供しています。

- 溪仁会円山クリニック(中央区)



地域医療

公立診療所の指定管理者として、地域の医療を支えています。

- 泊村立茅沼診療所(泊村)
- 喜茂別町立クリニック(喜茂別町)



リハビリと療養

看護・介護・リハビリテーションを中心とした医療サービスを提供しています。

- 札幌溪仁会リハビリテーション病院(中央区)
- 札幌西円山病院(中央区)
- 定山溪病院(南区)



連携で、地域の安心を支えます。

のサービスを展開し、地域の皆さんの健康と安心を支えてきました。

必要なサービスを強化し、さらに皆さんの健やかな人生をサポートしていきます。

介護・社会復帰・生活支援 [入居支援]

住み慣れた家庭や地域で生活できるよう、介護・福祉のサービスを提供しています。

- 介護医療院・札幌西円山病院 介護医療院(中央区)

- 特別養護老人ホーム

- ・西円山敬樹園(中央区) ・岩内ふれ愛の郷(岩内町) ・月寒あさがおの郷(豊平区) ・きもべつ喜らめきの郷(喜茂別町)
- ・手稲つむぎの杜(手稲区) ・菊水こまちの郷(白石区) ・るすつ銀河の杜(留寿都村)



介護予防・生活支援・通所介護 [在宅支援]

病気や障がい等で介護が必要な方に、専門のスタッフが日常生活をサポートいたします。

- 小規模多機能型居宅介護
- 地域包括支援センター
- 介護予防センター・介護予防サロン
- 通所介護(デイサービス)
- 認知症対応型通所介護(デイサービス)

- 指定居宅介護支援事業所
- 札幌市障がい者相談支援事業所・札幌市障がい者住宅入居等支援事業所
- 訪問看護ステーション
- 訪問介護(ホームヘルパーステーション)



身体障がい者支援

社会の中で生き生きと過ごせるよう、障がいを抱えた小児患者さんを中心にさまざまな面から支援を行います。

- 医療法人稻生会



溪仁会グループの 社会的使命

「ずっと。」 人と社会を支える

私たち溪仁会グループは、
社会的責任(CSR)経営を推進します。
高い志と卓越した医療・保健・福祉サービスにより、
「一人ひとりの生涯にわたる安心」と
「地域社会の継続的な安心」を支えます。

2014年10月1日制定

溪仁会グループの事業理念

安心感と満足の提供

Offering a Sense of Security and Satisfaction

プロフェッショナル・ マインドの追求

Attaining a Professional Mind

信頼の確立

Building the Foundations of Trust

変革の精神

Developing the Spirit of Change

グループ経営の理念とその体系

私たち溪仁会グループは、「ずっと。」を合言葉にCSR経営を推進してきました。この「ずっと。」を具体的な理念として規定し、社会的責任をグループ全体で約束し、実現していくために、2014年10月1日に「溪仁会グループの社会的使命」を制定しました。医療・保健・福祉のサービスの質(公益性)を「人」、経営の質(継続性)を「社会」という言葉で表現しています。

「溪仁会グループの社会的使命」は、事業理念や各種達成目標の上位概念として、経営の根幹を成すものです。また、溪仁会マネジメントシステム(KMS)を、私たちの活動全体を支え、CSR経営を確かなものにする取り組みとして位置づけています。

溪仁会
グループの
理念体系図





溪仁会グループのCSR活動

Report 2017

溪仁会グループは地域の医療、保健、福祉を担い、
『「ずーっと。」人と社会を支える』という社会的使命の実現をめざしています。
その理念を組織全体で共有するために「CSR経営」を掲げ、
公益性を高め、持続性のある組織であり続けるために、
さまざまな活動に取り組み続けてきました。
職員一人ひとりの研鑽から、組織を挙げたプロジェクトまで、
私たちのCSR活動をお伝えします。

溪仁会グループが重視する 3つのテーマ

溪仁会グループは医療、保健、福祉の事業によって、誰もが安心して住み続けられる地域の実現をめざす、地域包括ケアシステムの構築を進めています。
また、溪仁会グループの病院、施設、事業所など、そこで働く職員はすべて、地域社会を構成する一員でもあります。溪仁会グループが地域社会に参加し、密接なかかわりを築いていくことは、より良い地域づくりのための力となります。
それらの活動はすべて、地域の皆さんに支えられています。今だけの行動ではなく、未来へ継続していくことが大切です。溪仁会グループは、そのCSR活動に3つのテーマを設け、地域社会のために活動を続けていきます。



第1章 より良いサービスのために

溪仁会グループが提供する医療、保健、福祉のサービスにおいて、地域を牽引するトップランナーであることが、社会的使命を実現するための第一歩です。職員一人ひとりが変革の精神を持って最新の技術・知識を追究し、サービス向上に努めています。また、個々人の高いスキルをより患者さん・利用者さんの満足や、安全面の向上につなげていくため、チームワークを高めることで、品質向上のサイクルを築いています。

第2章 地域の皆さまのために

溪仁会グループの病院、施設、事業所が地域に開かれた存在であるために、地域社会との対話やコミュニケーションの機会はとても重要です。地域の一員として行事への参加や病院・施設でのイベント開催を積極的に行っています。医療、保健、福祉について理解を深めていただく機会を設けることで、地域への情報提供や人材育成につなげます。また地域の関係機関との公正な連携体制を大切にしています。

第3章 信頼される組織であるために

継続性を持った組織であるためには、地域の皆さんとグループ内で働く職員、双方との信頼関係を築かなければいけません。患者さん・利用者さんの人権を尊重し、同時にあらゆる人が働き、輝ける職場づくりを心がけています。職員一人ひとりの個性を尊重し、プロフェッショナルとして成長するための教育研修、ワーク・ライフ・バランス、健康管理や福利厚生などのさまざまな体制や制度を整えています。

より良いサービスのために

溪仁会グループの質の高いサービスを支えているのが、職員のプロフェッショナル・マインドです。皆さまを笑顔にするサービスをめざし、日々、努力を重ねています。

Human
Story①

生命を預かる者として、常に最善を尽くす。 最先端の技術に挑み、治療の選択肢を広げていきたい。

心臓や大動脈などの心血管系疾患の手術は、胸を大きく切り開き、一時的に心臓を止め、人工心肺装置で生命を維持して行うことから、大手術の代表とされてきました。近年、そのイメージを覆す新しい手術方法が次々に開発されています。手稲溪仁会病院心臓血管外科では、患者さんの身体の負担が少ない低侵襲の心臓血管外科手術を取り入れ、治療方法の選択肢を広げています。

同科を率いる山田陽主任部長は、大学を卒業後、大学院やアメリカの病院で心臓移植の研究に従事。30代半ばで帰国しましたが、日本では心臓移植にかかわる機会がなく、再度渡米を考えていた時に転機が訪れました。「先輩医師の『心臓外科医をめざしたからには臨床に出るべき』という言葉に心を動かされて。当科で数年経験を積むつもりが、気がつけば15年もたってしまった」と笑います。

同科では、2005年に外傷性大動脈損傷の手術でステントグラフト*内挿術を行ったことをきっかけに、低侵襲手術を積極的に導入。大動脈疾患に対するステントグラフト治療の定例手術の開始や、北海道初となる経カテーテルの大動脈弁留置術(TAVI) (P14参照)の実施など、先進的な治療方法に取り組んできました。

2014年から開始した、低侵襲心臓血管外科手術MICS

※ステントグラフト…バネ状の金属(ステント)と人工血管(グラフト)を組み合わせたもの。バネを縮めた状態でカテーテルを通して血管内を運び、大動脈瘤の位置で広げて固定します

手稲溪仁会病院
心臓血管外科
主任部長
山田 陽



(Minimally Invasive Cardiac Surgery: ミックス)は、従来のように胸骨を全切開するのではなく、まったく切らない、もしくは部分的に切るだけで行う手術の総称です。山田主任部長は「術後、痛みや出血が少なく、身体の回復が早いと、早期のリハビリテーション開始や社会復帰が可能なのがメリット。手術跡が目立ちにくいことから、MICSを希望される女性の患者さんもいます」と説明します。適応は心臓弁膜症や冠動脈バイパス術、胸部大動脈瘤など。手術時の視野が狭く、一般的な手術と比べて難易度が高いため、合併症や再発のリスクなどを検討し、万全を期して実施しています。

「低侵襲手術を追求するとロボット手術に行き着く」と話す山田主任部長は、2011年にアメリカで手術支援ロボットda Vinciを使った心臓手術の研修を受け、導入に備えてきました。2018年度からは、手術支援ロボットによる心臓手術の一部が保険適用になり、同科では早期の実施に向けて準備を進めています。

「手術に臨む患者さんを見ると、生命を預かっている責任をあらためて強く感じ、全力を尽くそうと思う」と語る山田主任部長。患者さんにとって最善な医療を、という思いを原動力に、あらゆる疾患に対応できる体制をめざして挑戦を続けています。

Human
Story②

病気の早期発見につなげることが私たちの責務。 受診された方の未来を守るという意識で臨んでいます。

健康への関心の高まりから、生活習慣病の予防や病気の早期発見・治療が重視されるようになり、定期的に健康診断を受ける人が増えています。溪仁会円山クリニックは健診事業を通して、地域の健康と生命を守る使命を果たしています。

受診者の心電図検査や肺機能検査などを行うのが臨床検査技師です。現在、エコー(超音波)検査を担当する臨床検査科の杉野早織主任補佐は入職10年目。子どもの頃から人体の組織などを調べる仕事に興味があり、この道に進みました。

エコー検査は、超音波を体に当てて体内を画像として映し出し、臓器や血管の状態を調べる検査です。正確に検査ができるようになるには熟練が必要で、「独り立ちまで3年間はかかる」と杉野主任補佐は言います。同科では、勉強会の開催や外部の研修会への参加などでスキルアップと検査精度の向上を図っています。

近年ニーズが増えているのが乳腺エコー検査です。手で触れただけではわからないような小さな病変を見つけることが可能です。乳がん検査では、乳腺が発達している若い女性などは、マンモグラフィ検査よりも乳房内がよく見える乳腺エコー検査の方が適していると考えられています。杉野主任補佐も「テレビのニュースなどで乳腺エコーの

ことが知られるようになり、検査を希望される方が増えています。より精度を高めるために、研修会などで勉強をしながら、さらに経験を積んでいきたい」と意欲を見せます。

検査で病気が見つかり、早い段階で治療を受けたことで、また健康診断に来られる方もいます。「『あのときに検査を受けて本当に良かった』という言葉を聞くこともあります。元気になった姿を見続けられるのもこの仕事のやりがいになっています」と杉野主任補佐。そうした方からの紹介で受診に来られる方もいるそうです。

杉野主任補佐が大切にしているのは、受診した方の生活を守るという意識。異常が見つからなかった場合、その方が次に受診されるのは、早くても1年後になります。期間が空いてしまうため、見落としがないように慎重に検査に臨んでいます。

「10年前と比べて、当クリニックの健康診断受診者数は大幅に増加しています。健康意識が高まっていることの表れだと思いますし、それだけ検査の役割もますます重要になっています。これからはさらに検査の精度を高め、多くの方に選ばれる存在になりたいと考えています」

溪仁会円山クリニック
健診部 臨床検査科
主任補佐
杉野 早織



Challenge① 介護ロボットの普及・啓発で福祉の未来を支える

介護の仕事の負担を軽減し、業務の効率化に役立つことを期待されているのが介護ロボットです。手稲つむぎの杜に開設された「北海道介護ロボット普及推進センター」は、介護現場へのロボット導入促進に向けた活動を展開しています。

Action

介護ロボットの情報を発信し、福祉業界の課題解消につなげる

北海道介護ロボット普及推進センターの活動

人材不足が課題になっている福祉業界において、介護ロボットの普及推進に向けた取り組みが始まっています。北海道が進める「介護ロボット普及推進事業」の一環として、2017年6月に手稲つむぎの杜に開設された「北海道介護ロボット普及推進センター」では、常設展示コーナーを設け、視察や見学の受け入れを実施。本事業は全国でも初の事例だったため注目度が高く、約8カ月間で40団体、延べ300名もの人が訪れました。

同事業はコンソーシアム(共同事業体)方式で行われており、同施設はその一員として事業に参画しました。センターの専任職員として、見学者の対応などを担当した施設ケア部生活支援課の中村将太課長は「先進的な介護ロボットを使うことができ、介護職員の負担軽減につなげられるというのが大きなメリットで



腰に装着し、移乗介助などの動作をサポートする介護ロボットは、職員の身体にかかる負担を軽減。腰痛のリスクを減らし、安全に介助を行うことができます

した」と参画の意図を説明します。

同事業の目的の一つが、実際に介護ロボットを使用した感想や問題点をメーカーにフィードバックすることでした。利用者さんのベッド移乗や移動介助では、職員から「2人がかりで行っていた介助が1人でできた」といった声が聞かれた一方で、「使用手順がもう少し簡易になれば使いやすい」という意見も出されました。中村課長は「この事業で感じたのは、ロボットの機能の改善だけでなく、働く職員の意識改革も必要だということでした。自分たちの体を守るために介護ロボットを積極的に使う、という考え方が浸透していけば、介護現場で働く人がもっと増えるかもしれない」と話します。

同センターは2018年度には、旭川・函館・帯広にも拠点を開設して事業を継続しています。同施設では、展示コーナーがJR桑園駅前のショールームに移設されたことで、介護ロボットの使用状況を見学者に紹介するという本来の役割に注力できるようになりました。今後は実用性の高い介護ロボットを中心に導入



し、より積極的に情報発信していくことをめざしています。

2018年度の事業では、より実用性の高い介護ロボットを導入し、介護現場での活用を図っています



手稲つむぎの杜
施設ケア部
生活支援課 課長
中村 将太

Challenge② 高度急性期を担う医療機関としての高みをめざす

手稲溪仁会病院を中心とする手稲溪仁会医療センターが取り組んできた中期事業計画「Tプロジェクト」が2017年に終了しました。

より高度な医療体制と療養環境が整った同センターの姿をプロジェクトの経過とともにご紹介します。

Action

より高度な専門医療と快適な療養環境を実現

手稲溪仁会医療センター・Tプロジェクト報告

施設の拡充や最新医療機器の導入で先進の医療体制へ

手稲溪仁会医療センターでは、高度先進医療への対応や医療体制の充実、療養環境の向上などを図るため、中期計画として「Tプロジェクト」*を立ち上げ、2011年4月から既存施設の改修・改善、新棟の建設、新設備の導入などを行ってきました。ハード面を整備することで、地域の急性期医療を担う基幹病院としての機能をより高めよう、というのが目的でした。

手稲溪仁会病院を中心に進められた同プロジェクトは、約6年3カ月をかけ、2017年7月に終了。2015年の新棟完成や、既存棟の改修などによって、病床数は550床から670床に増えました。同時に、高度急性期医療への対応も進め、救命救急病床をはじめ、ICU(集中治療室)やSCU(脳卒中ケアユニット)、NICU(新生児特定集中治療室)を大幅に増床。さらにGCU(継続保育室)6床の新設、手術室の3室増室や外来化学療法室の拡充など、より専門性の高い医療体制を整えました。

同病院経営管理部の堀江篤部長は「施設整備だけでなく、ハードとソフトの両面がうまくかみ合っこそ、本来の機能が発揮できると考えています。そのためスタッフの増員やスキルアップにも取り組んできました。長期間にわたる大規模プロジェクトだったため、患者さんや協力会社の方々にご迷惑とご不便をおかけしましたが、これまで以上に質の高い医療を提供できる体制になりました」と話します。

※手稲溪仁会医療センターの頭文字のTを取って「Tプロジェクト」と命名

北海道の医療を支えるために進化を続ける

2016年10月に本格稼働を始めた「患者サポートセンター」によって、外来や入退院に伴う手続きなどがスムーズになり、連携する医療機関との機能分化も進んできました。課題となっているのは待ち時間の解消ですが、快適にお待ちいただける環境整備や利便性の向上などによって、改善を図っていく予定です。また、新棟の完成によって、病院内の移動が複雑になったという声もあり、わかりやすい案内表示の工夫も進めています。

「今回のプロジェクトによって、施設や医療サービスが強化されただけでなく、職種や所属を超えて協力し合う中で、組織としての一体感も醸成されました。働く職員が夢を持つことができる病院、北海道を代表する病院に、という思いを持ってスタートしたプロジェクトですが、今後は整備された環境を最大限に活用し、その願いをかなえていきたい」と話す堀江部長。同プロジェクト終了後も、さらなる高みをめざす取り組みは続きます。



既存のA棟は、2人床と5人床をそれぞれ個室と4人床に改修。特別室を設けるなど療養環境の向上を図りました



2017年6月には手術支援ロボットda Vinci を最新のXiに更新

■Tプロジェクトのあゆみ

2011年	8月	da Vinci S導入
2012年	3月	320列CT導入
2013年	2月	HCU開設
	5月	ハイブリッド手術室稼働
2014年	4月	第3血管造影室稼働
	5月	電子カルテ更新
2015年	8月	第3MRI導入
	11月	新棟完成

2015年	12月	手術室を15室に増室
2016年	7月	新NICU、GCU稼働
	10月	患者サポートセンター開設
		新SCU稼働
		ICU増床改修完成
2017年	6月	da Vinci Xi導入
	7月	A棟(3~7階)改修完了

More Actions 介護ロボットについて知っていただくための活動

介護の仕事の魅力を伝えるイベントを開催

2017年10月7日、コミュニティホーム美唄と美唄市民会館において、「介護のしごと魅力アップ推進事業」の一環として「みんなのKAIGOフェスタinびばい」を開催。介護ロボットや福祉機器の実演・展示会を行い、多くの方に体験していただきました。



トークイベントで介護ロボットを展示

2017年8月19日に、小樽市のウイングベイ小樽で開催された「介護のしごとトークイベント」で、介護ロボットの展示と紹介を行いました。イベントには幅広い年代の方が参加され、介護ロボットに関心を持って質問などをされる方も多くいました。

喜茂別中学校の生徒さんが体験

若い世代へのアプローチとして、中学生や介護を学ぶ学生などに介護ロボットの紹介を行っています。2017年10月17日には、喜茂別中学校の2年生を対象に、介護ロボット3台を使い、体験会を実施しました。

Challenge

認知症患者さんの
療養生活の質向上を図る

Action

専門性の高い
多職種チームが
現場を支援

Next Step

院内外で連携体制を築き
退院後の支援も強化へ

認知症ケアサポートチームの活動

[定山溪病院]

高齢の患者さんは身体疾患と認知症の併発、または入院に伴う認知機能の低下などがみられることが多く、療養中には認知症への専門的なケアも必要となります。定山溪病院では、認知症の専門的知識を持つ多職種が協働し、病棟スタッフの支援や患者さんの療養環境向上に取り組む認知症ケアサポートチームが2016年4月から活動しています。



認知症サポートケアチームによるカンファレンス

チームは神経内科医師と認知症看護認定看護師をはじめとした多職種の7名で構成。支援にはリハビリが重要であることから、2017年度からは作業療法士が加わりました。週1回の院内ラウンドやカンファレンス(症例検討会)、コンサルテーション(援助・指導・助言・協議)、家族を含めた退院後の支援などの活動を行っています。また独自の取り組みとして薬剤師をチームに加え、使用薬剤の見直しや減薬にも取り組んでいます。2017年度に認知症ケアサポートチームが関わった事例は175名となりました。

今後は電子カルテ運用への対応や、退院時の情報提供を充実させるなど、チームの各職種がそれぞれ質向上に向けて取り組んでいきます。

Challenge

都市の中にも、
医療資源が少ない
地区がある

Action

住民の健康管理に必要な
外来医療を強化

Next Step

地域医療構想に沿った
機能の設定・サービス強化を
進める

生活習慣病・高齢者総合外来を開設

[札幌西円山病院]

札幌西円山病院は開院以来、入院医療を中心とした高齢者医療に取り組み続けてきました。同病院の位置する円山西町は診療所がない地域です。そこで住民の方々の日常的な健康管理を担うことも役割と捉え、外来医療の強化を進めています。

2017年10月には、高齢者に関わるさまざまな症状を総合的・専門的に診療する「生活習慣病・高齢者総合外来」を開設しました。糖尿病や高血圧といった生活習慣病や、加齢によって発生する身体の不調を中心に、物忘れや、病気を抱えての不安などさまざまな相談にも対応しています。

外来受診の前の予防活動も同時に地域で展開していくため、リハビリ健診や地域講演活動も実施しています。これまで実施してきた医療公開講座や認知症カフェなどの活動を継続するほか、外来機能やリハビリ健診などを増やし、より手厚い地

域医療を実現してきました。

入院医療についても、障害者一般病棟の看護基準の10:1への転換、2018年7月から新設された介護医療院の開設など、制度や需要の変化に合わせた機能強化を進めています。今後も地域が必要とする機能をさらに充実させていきます。



生活習慣病・高齢者総合外来の診療の様子

Challenge

開胸手術の負担が大きく、
治療できない方への対応

Action

体への負担の少ない
手術方式を導入

Next Step

術後の経過観察に向け
かかりつけ医と緊密に連携

手稲溪仁会病院ハートチーム TAVI100症例を達成

[手稲溪仁会病院]



ハイブリッド手術室で行われるTAVI

循環器内科と心臓血管外科を中心に多職種で形成される手稲溪仁会病院ハートチームでは、体への負担の少ない治療の導入を進めてきました。同チームでは、重症大動脈弁狭窄症への治療法として、経カテーテル的大動脈弁留置術TAVI(Transcatheter Aortic Valve Implantation:タビ)に取り組んでいます。開胸せずカテーテルを用いて心臓の大動脈弁に生体弁を留置する手法で、高齢などの理由から開胸ができない患者さんにも、手術治療できる可能性が高まりました。

2014年6月12日に北海道での第1例となる、経大

腿動脈アプローチによる大動脈弁の留置に成功。その後、大腿動脈からのアプローチが難しい方に対する、経心尖部アプローチの症例も実施しました。装置も進歩し、2016年1月から使用可能となった自己拡張型生体弁も導入しています。そして2017年9月19日、TAVI100症例目を実施しました。手術を受けた患者さんは全員が、致命的な合併症を生じることなく、退院していただくことができました。今後は症例を重ねつつ、また、さらに新たな低侵襲治療の導入も進めていく予定です。TAVI術後の患者さんの経過を、地域医療連携の中でフォローする体制づくりを進めています。



手稲溪仁会病院ハートチーム

Challenge

天災や原発事故に備え、
高齢者を含めた
避難計画が必要

Action

行政・自治体と連携した
設備・体制強化を実施

Next Step

緊急時に正しく避難や
装置の稼働ができるよう
訓練を継続

放射線防護対策事業と岩内町との災害時協定締結

[社会福祉法人溪仁会・コミュニティホーム岩内]

コミュニティホーム岩内は、泊原子力発電所から半径10km圏内に位置するため国が定める「防護措置を準備する地域」にあたります。原子力規制委員会が示す災害対策指針に基づき、北海道原子力災害対策事業費補助金にて、北海道・岩内町と連携しながらさまざまな事態を想定した放射線防護対策工事を行いました。



コミュニティホーム岩内のフィルター棟と、その内部に設けた放射性物質除去装置

放射性物質の異常放出による緊急事態を想定し、放射性物質を取り除いた空気を建物内に送る「放射性物質除去装置」を設置したフィルター棟を建設する計画で、工事は2017年3月14日に完了しました。これにより、緊急時の早期避難が困難な利用者さんの一時的な避難所として活用ができます。

これを受けて同年12月5日には、社会福祉法人溪仁会と岩内町との間で、地震・津波や泊原発の重大事故時に、迅速な広域避難が困難な高齢者や要支援者を一時的に施設へ受け入れる協定を締結しました。2018年2月5日・8日には、後志管内23町村と北海道による北海道原子力防災訓練にコミュニティ



ホーム岩内が参加し、放射線防護システムの有効性について検証を行っています。

岩内町との協定締結式



誰もが安心して暮らし続けられる 地域をめざして

～札幌溪仁会リハビリテーション病院と地域の方々との対話～

2017年6月、札幌市の桑園地区に開院した札幌溪仁会リハビリテーション病院は誰もが住み慣れた場所で安心して暮らし続けられる地域づくりをめざし、さまざまな活動を展開しています。同病院とかかわりの深い地域の方々をお招きし、これまでの活動を振り返るとともにめざすべき未来の姿について意見を交わしていただきました。



足立 広亮 氏
札幌市中央区市民部
桑園まちづくりセンター 所長

桑園地区で暮らす人々と行政とのつなぎ役として、地域の声を聞きながら、暮らしやすいまちづくりに向けた支援を行っている。



石塚 祐江 氏
特定非営利活動法人
環境り・ふれんず 代表理事

桑園地区の交流推進に向けた情報発信などを行う桑園交流ネットワークの事務局を務め、地域をつなぎ、活性化を図る活動を展開する。



川口 真奈美 氏
なつたSapporo主宰

高齢者を対象に、ボイストレーニングや歌唱などの講座を開催。桑園交流ネットワークの一員として介護予防を図るサークル活動も行う。



橋本 茂樹
札幌溪仁会リハビリテーション病院
副院長・臨床統括センター センター長

リハビリテーション病院のトップランナーをめざすと同時に、まちづくりに積極的に参画。病院を人や情報が集まる地域の拠点に、と考える。



畠山 祐志
札幌溪仁会リハビリテーション病院
地域連携室 主任補佐

医療ソーシャルワーカーとして、患者さんの生活支援などを担当。桑園地区の方々との交流を通じ、地域と病院との窓口となることをめざす。

桑園地区に暮らす人々とともに 地域の未来を支える活動に取り組む

橋本 札幌溪仁会リハビリテーション病院は、地域の人たちの生活をずっと支え続けられる存在になることを大きな目標に掲げて開院しました。障がいのある人に質の高いリハビリテーションを提供すること、そして、この桑園地区を超高齢社会に対応した暮らしやすいまちにしていくためには何をすべきか、ということに常に考えながら活動しています。

足立 私は、昨年この桑園地区に異動になって、初めて地域の方と一緒に仕事をする機会を得ました。ここは石塚さんが事務局をされている桑園交流ネットワークを含めて地域活動が本当に活発で、そこに医療機関などさまざまな組織や人が加わるというかたちが自然にできているので、とても恵まれたところに来たなと感じています。

石塚 開院されて約1年ですが、病院の皆さんとは開院の準備段階のときから桑園交流ネットワークとつながりがありましたから、お付き合いはもっと長いですね。開院する前から地域とかかわってくださったことで、自然に受け入れられたのではないかと思います。

橋本 桑園地区というのは、若い人も増えるのですが、高齢者もどんどん増えることが予想されていて、札幌でも高齢化による諸問題が顕在化していきそうな地域だと考えています。そこに桑園交流ネットワークという地域をつなぐ存在があって、とても勇気づけられました。

足立 橋本先生は、桑園交流ネットワークのことは以前からご存知だったのですか。

橋本 最初にアプローチしたのは当病院の横串算敏院長でした。まず、院長が事務局に挨拶にうかがって、それから私にこういう活動をしているところがあるよ、と教えてくれました。

石塚 新しい病院をつくるので、活動に参加させてもらいたい、と挨拶に来られたのが最初でした。横串先生も橋本先生もすごく熱心で

したが、まさか病院のトップの方だとは思わなくて。病院のお披露目のときに、院長と副院長だと知ってびっくりしました。

川口 みんな驚いていましたよね。

橋本 この1年間、当病院では桑園交流ネットワークとの活動として桑園医療ケアプロジェクトを立ち上げ、「そうえん健康茶話会」を開催してきました。また「桑園フォトコンテスト」や「桑園交流大学」などへの参加、健康フェスタでの講話なども行いました。病院独自の取り組みとしては、2018年7月から高齢者運転能力専門外来を始めました。また、小学生向けの認知症講座や介護体験、地域の方の健康維持を目的にした「溪リハお元気セミナー」なども実施しています。

石塚 病院ができてから、職員の方が桑園交流ネットワークに参加してくれるようになって、町内会のイベントにも若い人が増えました。いろいろな部分でサポートしてくれるのでとても助かっています。

橋本 逆に、地域の方に協力していただければいいな、と思うことがあって、例えば、川口さんの歌の会の方などに、院内で歌ってもらうのはどうだろう、と考えているのですが。

川口 歌を好きな方は多いし、喜ばれると思います。ただ歌を聴くだけではなくて、みんなで歌えるような参加型にするとさらにいいと思いますよ。

橋本 そうか、参加型か。そういうのもいいですね。

畠山 その体験がきっかけになって退院後、川口さんの会に参加する方がいるかもしれませんね。ご自宅に戻られた後、歌を歌ったり、体操をしたりという活動を通して地域とつながりができると、生活に張り合いが出るのではないかなと思います。

川口 張り合いや生きがいというのはすごく大事なことだと思います。

畠山 ご病気になったり障がいを負ったりすると、家に閉じこもりがちになる方も多いのですが、私たちがかわかることで、そういう方でも地域に出られるのだ、という視点を持っていただきたいと思います。

橋本 この桑園地区にある訪問看護サービスや居宅サービスなど



地域との活動



「溪リハお元気セミナー」は地域の方の健康維持をサポートする取り組みとして、2018年度より開始しました

札幌溪仁会リハビリテーション病院開院1周年を記念して開催したロビーコンサートでは、患者さんやご家族、地域の方など多くの人が札幌大学吹奏楽部の演奏に耳を傾けました

を結び、医療やケアの質を高めていくことも重要な仕事だと考えています。その土台をつくりながら、家に閉じこもっている人たちにいかに外に出てきてもらうか、ということに取り組んでいきたいと考えています。

より多くの方とつながるための 情報発信の在り方とは

橋本 皆さんが当病院に対して「もっとこんなことをやったらいいのに」と思うことはありますか。

石塚 地域活動については何も言うことはないと思います。先日もイベントをされていましたよね。

畠山 溪リハお元気セミナーですね。参加者が少ないときもあって、もっと集まっていたら良かったと考えているのですが。

石塚 参加した人が「せっかくの機会なのにもったいない。もっと多くの人に知らせる方法はないのだろうか」と言っていました。一生懸命取り組みをされているけれども、それを知らない人たちにどう伝えていくのが課題かもしれません。

橋本 そうですね。自分たちの活動を地域の人にわかってもらう取り組みは、まだまだかな、と思います。

畠山 職員が300人以上いるので、情報発信が一元化できず、それぞれの部署で行っているのが実状です。情報を集約できればよいのですが、まだそこまでできていないのが課題になっています。

川口 先ほど畠山さんが話されたように、自宅に閉じこもりがちの方が地域活動に参加するきっかけをつくるためにも、もっと地域の情報を知ってもらふ必要があるのではないかと思います。例えば病院にラックなどを設けて、いろいろなチラシを置いたりできれば、新たな情報発信につながるのではないのでしょうか。

畠山 外来を受診された方が、地域でこんなことをやっているんだなと知る機会になりますし、逆にチラシを取りに来た方に、当病院を知っていただくきっかけになるかもしれませんね。



足立 一度病院に足を運んでもらえれば、内科もあることがわかるし、1階の福祉用具の展示コーナーで親御さんのために歩行器を見ておこう、となったりもすると思うのですが。

川口 今は元気な人でも、将来のために「こういう病院があるのだ」ということを知っておけば安心ですしね。

橋本 今は医療関係の情報提供が多いのですが、いろいろな人が病院に入りやすくなる手段として、桑園地区情報コーナーのようなものができたら面白いですね。

足立 行きやすさにつながると思います。ロビーからは2階のリハビリ室も見えるので、病院の雰囲気も伝わるのではないのでしょうか。



9月に開催される「ミニ大通お散歩まつり」には、札幌溪仁会リハビリテーション病院が実行委員として参加。健康セミナーの開催や救護班の協力などを行っています

桑園小学校で行われた「認知症キッズサポーター養成講座」では、横串算敏院長が講師を務めました



「そうえん健康茶話会」は桑園地区の高齢の方を対象に、健康への意識を高めていただくことと交流の場づくりを目的に開催しています

石塚 開院してまだ1年ですし、このまま長く続けていけば、この病院の取り組みはちゃんと地域に浸透していくと思いますよ。

誰もが暮らしやすいまちづくりをめざし 超高齢社会のモデルを描いていく

橋本 これから先、桑園地区や当病院がどうあってほしいと思いますか。

足立 当たり前のことですが、お年寄りから子どもまで、住みやすいまちになってほしいですね。病院に対しては、医療機関としての役割だけでなく、住民が気軽に立ち寄り、何かを相談できたりする場になってほしいと考えています。いろいろな年代の人々が集い、交流ができる、桑園地区のシンボリックな存在とでもいうのでしょうか。

川口 私は、このエリアが札幌市のまちづくりのモデルになって情報を発信することで、他の地域でも同じような取り組みが始まれば、と思っています。また、未来を担う若い人たちが将来への意欲を持てるような病院に、例えば医師になりたいとか、リハビリテーションの仕事に就きたいとか、コミュニケーションの仕事がしたいとか、夢や希望を与えるような場所でもあってほしいと思います。

石塚 私が期待するのは、物理的な部分だけでなく、心の部分も含めてバリアフリーなまちになることです。すべてに対してバリアフリーなまちづくりができれば、みんなが安心して暮らすことができるのではないのでしょうか。そして、何十年先までもこの病院がここにあって、私もいつかリハビリテーションに通えればな、と思っています。

畠山 バリアフリーということでは、高齢の方も、障がいのある方も、年間を通して出歩くことができる地域になってほしいですね。誰もが住みやすいまちづくりができるように、私たちも活動していきたいと考えています。当病院の将来像としては、足立さんがおっしゃったように、この病院に来れば何でも相談に乗ってもらえるという、地域に開

かれた病院をめざしていきたいです。

橋本 私はヘルパーさんやボランティアさんなどのネットワークをつくっていきたいです。そういう方たちに高齢の方や障がいのある方を外に連れ出していただいて、地域に参加してもらふ活動ができれば、と考えています。もう一つは、20年後、30年後には高齢の方と子どもと一緒に笑顔になれる場所をつくることです。このままだと、高齢の方とどう接していいのかわからない大人ばかりになってしまうので、多世代が結びつく環境をつくる必要だと思います。

川口 なつたSapporoに来られる高齢の方は、まだ外とつながろうという意欲がある方です。自宅から出てこれない方もたくさんいらっしゃると思いますので、そういう方たちにも情報をお伝えして、「一度来てみませんか」という声掛けができるような活動を病院と連携しながらできれば、と考えています。

石塚 この病院ができて、本当に桑園地区は良かったな、と感じています。橋本先生や畠山さんをはじめ、多くの職員の方に支えられて、私たちの地域活動は成り立っています。これからもよろしく願ひいたします。

足立 このような場は初めてだったのですが、とても貴重な機会になりました。これからも皆さんにはいろいろな場面でお世話になると思いますので、よろしく願ひいたします。

畠山 今日はあらためて自分たちの活動を客観的に振り返ることができましたし、今後どのような活動をしていけばいいのか、ということを考える機会になりました。バリアフリーに貢献するという部分でも、当病院がその一端を担うことができればと感じました。

橋本 当病院がこの桑園地区を選んだのは、ここを超高齢社会に対応したまちのモデルにしたい、という狙いがあったからです。ここは地域づくりがしっかり根付いていたので、私たちはすごく幸運でしたし、とても感謝しています。私たちがここですべきことは、高齢の方や障がいのある方とケアや医療の部分でかわりながら、そういう方がまちづくりに参加できる仕組みをつくることです。みんなで協力しながら進んでいきたいと思っていますので、よろしくお願いします。



※本ダイアログは2018年7月9日に札幌溪仁会リハビリテーション病院において開催しました

地域の皆さまのために

地域の方々と手を取り合い、健康と暮らしを支えることも溪仁会グループの重要な使命です。皆さまと密接にコミュニケーションを図りながら信頼関係を築き、共に未来を考えていきます。

Human
story③

地域と連携しながら高齢者の健康づくりを支える。 柔軟な活動で、介護予防の大切さを伝えていきたい。

社会福祉法人溪仁会では、いつまでも住み慣れた地域で健康に暮らし続けたいという高齢の方をサポートする活動に取り組んでいます。喜茂別町と連携した介護予防事業「スマイルトレーニング」もその一つです。同事業は高齢者が要介護状態になるのを防ぐために身体機能の向上をめざすもので、2017年度の試行を経て、2018年度から本格的に始動。町内在住の高齢者を対象に、喜茂別町立クリニックの2階にあるトレーニングルームで実施しています。行政機関と民間事業者が一体となり、柔軟な発想でそれぞれの強みを活かしていくというユニークな取り組みです。

トレーニング参加者への運動指導を中心に、喜茂別町の高齢者の健康づくりをサポートしているのが工藤さとみ保健師です。留寿都村役場勤務や高校での講師などを経て、2016年に同法人に入職しました。「高齢者福祉や介護予防事業のことも、何も知りませんでしたが、資格を活かして地域のお役に立ちたい、という思いがありました。後志管内で行われる健診のお手伝いをしていたことで、行政や住民、福祉事業者などをつなげる存在の必要性を感じていましたし、私自身、そうした仕事を通じていろいろな人とのネットワークがあったので、それも活かせるのではと考えました」

昨年の試行では、70代を中心に5名の方が参加。3カ月間、全28回にわたって筋肉量を増やすトレーニングを実施したところ、ほとんどの方が休まずに最後まで続けられました。表情も次第に明るくなり、姿勢が良くなり、トレーニングに通うことでファッションも変化していったそうです。「このトレーニングは効果を実感しやすく、小さな変化に気づいて声掛けをするようにしたことで、モチベーションの向上につながったのだと思います。また、参加者に仲間意識が生まれて、楽しく続けられたことも大きかったようです」

今年度は3カ月単位のトレーニングを3クール、各定員10名で実施する予定です。同事業のことは少しずつ知られるようになってきましたが、まだ認知度が低いため、今後は足腰が弱く自宅からあまり出られない方や筋力が低下している方など、要介護の手前にある方たちの状況を把握し、参加につなげていくことを目標にしています。

「人口2,200人ほどの小さな町だからこそできることがあると考えられています。夢は、高齢になっても自宅で元気に暮らし続けて、支援が必要になったときは医療や福祉、介護サービスなどがスムーズに提供できる地域包括ケアシステムをつくること。喜茂別町なら、そうしたまちづくりが実現できると信じています」

社会福祉法人溪仁会
事業推進部
地域支援事業推進課
保健師
工藤 さとみ

Human
story④

地域に寝たきりの方をつくらないのが医師の使命。 患者さんの悩みや思いに寄り添う医療を続けていきたい。

疾患や障がいを抱えながら、地域で暮らす方が増えています。定山溪病院では2016年から、在宅の神経難病の患者さんとそのご家族を支援するための取り組みを始めています。

松本昭久神経難病センター長は、神経内科分野の草分け的存在として、国立療養所札幌南病院神経内科病棟を立ち上げ、市立札幌病院では急性期医療に携わりました。神経内科は難治性の神経難病患者さんが多く、松本センター長には、診断をした医師の責任として、終末期までかかわるべきではないか、という思いがあったといいます。「市立札幌病院にいたときに患者さんのリハビリテーションをお願いしていたため、当病院のことはよく知っていました。他の医療機関では対応が難しいとされた患者さんを受け入れていたこと、積極的にリハビリテーションを提供していたことなど、その理念にも共感するところがあり、この病院で神経難病患者さんの終末期医療と向き合おうと思いました」

生涯にわたって治療を続ける必要がある神経難病に対し、同病院は市立札幌病院や大学などと共に、急性期から終末期まで連携して医療を提供できる体制を確立。神経難病センターでは、薬物治療とリハビリテーションを効果的に組み合わせた、質の高い医療を

行っています。「薬の量をできるだけ少なくして、適切なリハビリテーションを行うことで、より症状の改善が期待できます」と松本センター長。最近では同センターの取り組みが知られるようになり、遠方から通院される患者さんも増加しています。

松本センター長が重視しているのが、地域で暮らす神経難病患者さんのサポートです。特に、高齢になると発症率が高まるパーキンソン病は、寝たきりになる病気の代表とされていましたが、近年は早期にリハビリテーションを行うことで、進行を遅らせることが可能になっています。松本センター長は、パーキンソン病の方とご家族を対象に神経難病研修会を開催し、病気の解説や情報提供、リハビリテーション指導などを実施。相談の場を兼ねた交流会では、支援を必要としながら、情報がないために不安なまま過ごしていたという声も多く聞かれ、研修会への参加をきっかけに、通院や訪問リハビリテーションにつながった方もいます。

反響の大きさを実感し、「今後は地域の医療者向けのセミナーなども開催していきたい」と意欲を語る松本センター長。寝たきりの患者さんを増やさないために、神経難病への理解を図る活動に取り組み、地域の医療や暮らしを支えていきます。

定山溪病院
神経難病センター長
松本 昭久



Challenge③ 地域の医療を共に支える医療連携の取り組み

地域の医療がこれからも持続し、質の高いサービスを提供していくには医療機関が協力して機能分化を図り、それぞれの特性を活かすことが必要です。急性期医療を担う手稲溪仁会病院は、地域全体で医療を支える仕組みづくりを進めています。

Action

提携医療機関や患者さんの信頼に応えるために
地域医療支援病院としての使命に取り組む

医療の機能分化への理解と連携強化を推進

急性期医療を担う手稲溪仁会病院は、医療の役割分担を図るために、地域にある医療機関との連携を推進してきました。2012年に「地域医療支援病院」の承認を受けたことで、さらに取り組みを強化し、地域医療を支える活動を続けています。2016年10月には、入退院の手続きや、検査・手術の説明、医療や福祉についての相談などをワンストップで行う患者サポートセンターを開設。地域の医療機関から紹介を受けて来院される患者さんへの対応や、症状が安定した方に地元の医療機関を紹介する逆紹介などもよりスムーズに連携できるようになりました。

「当院では2003年に地域医療連携室を立ち上げて以来、外部の医療機関との連携を進めてきました。当時は平均して1カ月に800～900件程度の紹介数でしたが、患者さんの迅速な受け入れ態勢と、治療が終わった患者さんの逆紹介を重視したこと、さらに地域医療支援病院に承認されたことで、紹介率が飛躍的に上がりました。地域の医療機関や住民の方々に、医療の機能分担やかかりつけ医の必要性を、時間をかけてご説明してきましたが、それが少しずつ浸透してきたのだと思います」と、同センターの脇坂可奈子主任はこれまでの経緯を説明。佐々木哲主任補佐は「これからは高度な急性期医療を提供する当病院の強みを広く知ってもらい、選ばれる存在になることが重要」と話します。



患者サポートセンター

地域の医療機関との信頼関係を重視

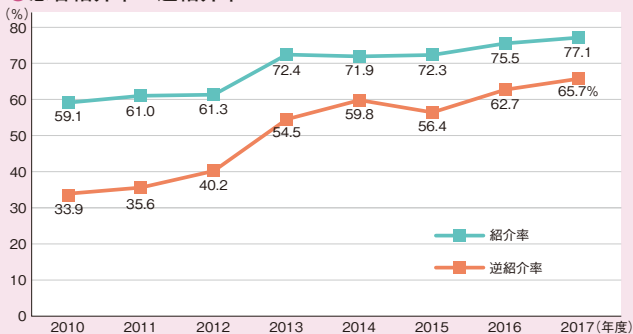
こうした医療連携を推進するために、同病院では提携する医療機関との信頼関係を大切にしています。ご紹介をいただいたときには極力断らないこと、逆紹介の際には患者さんの情報をできるだけ正確に伝えることを心がけ、提携医療機関や患者さんに信頼していただける対応を重視してきました。また、地域の医療機関や医療従事者への支援として、情報共有や講演会などの開催も行っています。今後は、地域のかかりつけ医と同病院の医師が共同して、退院後も患者さんの治療に携わる「2人主治医制」

や、医療機器の共同利用などを促進し、さらなる医療の質の向上に貢献していく考えです。

「当病院の診療科間の連携や情報共有の方法など、まだ課題はあります。地域からの信頼を裏切らないためにも、内部体制を改善していきたい」と脇坂主任。佐々木主任補佐も「患者さんに喜んでいただくためには、医療連携が良い循環を生み出すことが不可欠。院内でも医療連携の重要性をさらに訴求し、理解を深めたい」と今後の目標を語ります。

これからも同病院は地域の方々の声に耳を傾け、信頼関係を築きながら、地域の医療を支える取り組みを続けていきます。

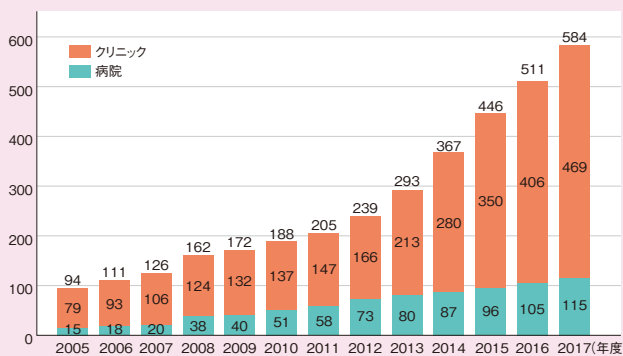
●患者紹介率・逆紹介率



●医療機器の共同利用実績 (2013年10月開始)

2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
22件	106件	143件	323件	382件

●提携医療機関数の推移

手稲溪仁会病院
患者サポートセンター
主任

脇坂 可奈子

手稲溪仁会病院
患者サポートセンター
主任補佐

佐々木 哲

Challenge④ 地域の方々と手を携え、安心して暮らせる環境づくりを

札幌の円山西町地区では町内会が核となり、さまざまな地域活動を展開しています。同地区にある札幌西円山病院や西円山敬樹園をはじめとする西円山ハーティケアの丘では、町内会の活動に参加させていただきながら、安心して暮らし続けられる地域づくりを考えています。

Action

信頼関係を育みながら地域の未来を考える
円山西町町内会との協働活動

札幌西円山病院は、1979年の開院以来、長い間、療養のために長期入院される高齢者を中心とした慢性期医療を提供してきました。そのため、近隣にお住まいの方が同病院を利用されることが少なく、地域と密接なコミュニケーションを図る機会がなかなかありませんでした。

2010年代になると、地域の健康づくりや病気の予防における医療機関の役割が重視されるようになり、同病院でも積極的に地域に出ていこう、という声が高まりました。最初は地域の活動から始めようと、円山西町町内会のごみ拾いや花植えに参加させていただくうちに、お祭りなどにも声をかけていただけるようになりました。また、近年は外来診療を強化していることもあり、同病院の医療サービスなどに関心を持たれる方も増えています。同病院の大植友樹地域連携推進室副室長は、「今では困ったことがあれば、気軽に相談に来ていただける関係を築くことができました。これも、町内会の方々が私たちを快く受け入れてくれたから。本当に感謝しています」と振り返ります。

隣接する介護施設である西円山敬樹園でも地域との交流を図る取り組みを重視しています。生活相談課の笹川滋雄副主任は「2014年に初めて『なるほど身になる福祉講座』を町内会と共催したとき、当施設の機能やサービスを知らない方が多いことに気づきました。ただ情報を発信するだけでは距離が縮まらないと思い、できるだけ外に出て地域の方々とかわらうと考えました。楽しく活動させていただきながら、地域に暮らす高齢の方の不安解消やニーズの掘り起こしにつなげていければ」と話します。



円山西町町内会の方々と共に、札幌市円山動物園で氷の滑り台づくりに参加しました

町内会との協働を続けてきたことで、組織内にも取り組みの意義や楽しさが浸透

し、進んで参加しようという職員が増えてきました。「今後は地域の方とさらに交流を深め、生まれてから高齢になるまで、ここで安心して暮らし続けられる環境をつくっていくことが目標」と笹川副主任。大植副室長も「地域を見渡しながらさまざまな人やサービスを結びつけることができるコミュニティ・ソーシャルワーカーを育てて、この地域を支えていく一助になれば」と思いを語ります。

地域の健康づくりや暮らしの安心に貢献するという使命を果たすために、地域と共に歩む取り組みはこれからも続きます。

札幌西円山病院
経営管理部 次長
地域連携推進室 副室長

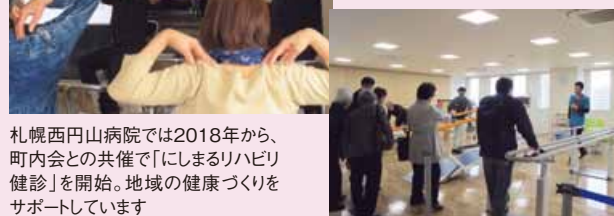
大植 友樹

西円山敬樹園
経営管理部 生活相談課
副主任

笹川 滋雄



2017年の「なるほど身になる福祉講座」で札幌溪仁会リハビリテーション病院の見学を行いました



札幌西円山病院では2018年から、町内会との共催で「にしまるリハビリ健診」を開始。地域の健康づくりをサポートしています

地域と医療や福祉が連携する
先駆的な取り組みに

円山西町地区は古くから暮らす住民が多く、高齢化も進んでいます。札幌西円山病院や西円山敬樹園をはじめとする施設の方々が、積極的に町内会の活動に参加してくれるのをみんな喜んでますし、若い方の姿が地域にあるというのはそれだけでうれしいことです。これからも医療や福祉、介護の専門家である皆さんと共に、この地域の未来をどう良くしていくかを考えていきたいと思っています。地域が一体になった取り組みを続けることで、地域包括ケアシステムの先行的な事例になるのでは、と期待しています。

認可地縁団体
円山西町町内会
会長

矢野 信一さん

Challenge

自宅療養の方、障がいのある方に地域とのつながりをつくる

Action

利用者さんやご家族とスタッフ、地域の方々が交流を深める会を開催

Next Step

地域交流や関係機関との情報交換につながる場へと発展

訪問リハビリテーションさくら「さくらの会」を開催

[札幌溪仁会リハビリテーション病院]

訪問リハビリテーションさくらは、2017年6月1日の札幌溪仁会リハビリテーション病院開院とともに札幌西円山病院から移管し、訪問リハビリを提供しています。札幌西円山病院時代から続けてきた活動に、訪問リハビリを利用する利用者さん・ご家族と病院スタッフが楽しい時間を共有するためのイベント「さくらの会」があります。

2017年は4月8日に「さくらまつり」と題して、札幌駅前通地下広場「チ・カ・ホ」の北大通交差点広場で実施しました。会場には利用者さんが制作されたアート作品の展示や健康チェックコーナーを設けたほか、札幌西円山病院の浦信行院長による講演、スタッフによる音楽ステージなども行われ、約270名の方に参加していただきました。

今後も「さくらの会」は札幌溪仁会リハビリテーション病院にて開催を継続していきます。国が推進する自立支援・重度化予防への取り組みや、地域交流活動として、利用者さんやご家族だけでなく広く地域住民

の参加も意識し、健康につながる話題提供を盛り込んでいく予定です。



浦院長の講演



健康チェックコーナーの様子

Challenge

高齢化が進む地域で、住民の健康意識を向上させ病気のリスクを下げる

Action

住民向けの講演会を開催し、医療の情報を提供する

Next Step

関心の高いテーマで情報提供を続け、医療に対する信頼感を醸成

4町村健康支援事業で講演会を実施

[社会福祉法人溪仁会]

積丹町、ニセコ町、喜茂別町、島牧村では、社会福祉法人溪仁会が実施主体となり、4町村合同での健康支援事業に取り組んでいます。その事業の一環として、2017年8月25日に積丹町総合文化センターで講演会が開催され、講師を手稲溪仁会病院救命救急センターの奈良理センター長が務めました。

奈良センター長は「後志におけるドクターヘリの役割～救急医療の現場から～」をテーマに、現場の立



講演会の様子

場から救急について解説。広大な面積を有する北海道で、フライトドクターやフライトナースを現場へと運ぶドクターヘリの説明や、それが後志地方でどのような役割を果たしているのか話しました。

また、10月27日には、ニセコ町で手稲溪仁会病院の木ノ下義宏外科部長が講師を務め、「食道がん」をテーマに講演を行いました。

今後も4町村の自治体と連携しながら、地域の方々にとって関心の高いテーマでの講演を企画し、健康への関心や医療への理解を高めるための活動を続けていきます。



講師を務めた奈良理センター長

Challenge

医療的ケアが必要または障がいのある子どもが暮らしやすい社会をつくる

Action

医療的ケアが必要な子どもやきょうだい児の絵本を制作

Next Step

絵本をきっかけに、より多くの人々を巻き込んで社会づくりを進める

絵本『ぼくのおとうとは機械の鼻』を制作

[医療法人稲生会]

「北海道小児等在宅医療連携拠点事業YeLL(いえる)」は、高度な医療的ケアが必要な子どもたちが家族と一緒に自宅で暮らすためのネットワークづくりとその拡大をめざし、医療法人稲生会を中心として活動しています。

2017年度はYeLLの普及啓発活動の一環として、これからの社会を担う子どもたちに医療的ケア児を知ってもらうための絵本と、それをもとにした動画を作成しました。鼻だけを覆う人工呼吸器をつけた姿がゾウさんに似ていることから、医療的ケアが必要な子どもとその兄弟をゾウのキャラクターで表現。絵本の巻末には医療的ケア児とそのご家族の写真を募集して掲載しました。

絵本は北海道内の公立小学校1,052校、特別支援学校43校、179市町村と14教育局へ寄贈しました。また、絵本を活用した出張授業も3回実施しました。2018年度以降も絵本の寄贈や絵本による啓発活動を続けていく予定です。



絵本「ぼくのおとうとは機械の鼻」 © みんなのことは舎／エアーダイブ



動画はQRコードからご覧ください
(YeLLホームページ)

Challenge

日本の医療現場へ技能の研修に来る外国人研修生の教育

Action

JICA研修員として来日した作業療法士の実習に協力

Next Step

外部からの研修生を受け入れられるようにさらに体制を整える

アルゼンチンから作業療法士の実習を受け入れ

[定山溪病院]

独立行政法人国際協力機構(JICA)では、開発途上国で国づくりの担い手となる人材を日本へ受け入れ、技術・知識の習得や制度構築のための学びなどをバックアップする「研修員受入事業」を行っています。

その「研修員」としてアルゼンチンから来日した作業療法士の佐藤ソニアさんは、札幌医科大学で2017年5月から10カ月間にわたって研修を受けました。そ

の研修の一環として、札幌医科大学から要請を受け、9月4日～15日の2週間にわたり、定山溪病院で実習を行いました。

実習では医療と介護の連携を学ぶことに重点を置き、病棟、通所リハビリ、訪問リハビリなど各部署での業務を体験し、それぞれのチーム医療について学びました。佐藤さんはアルゼンチンでは訪問リハビリの仕

事に従事しており、「病棟や通所でのリハビリ業務を体験できたことはとても勉強になりました」と話しました。

佐藤さんが夢と理想に向かって邁進し積極的に学ぶ姿に、病院スタッフもまた感銘を受け「患者さんに寄り添うセラピストでいたい」と決意を新たにしました。同病院では海外から学ぶ意志を持って訪れる人たちの研修を積極的に受け入れられるよう体制を整えていきます。



病棟でのリハビリを学ぶ佐藤さん

Challenge

病院のことを地域の方々に
もっと知っていただく

Action

病院の中や、
病院での仕事を見て
体験する機会を設ける

Next Step

参加者・スタッフ双方に
満足度の高い
取り組みへと改良していく

院内見学ツアーとブラック・ジャック セミナー

〔手稲溪仁会病院〕

手稲溪仁会病院では、病院のことを知ってもらうための取り組みとして、地域住民を対象とした院内見学ツアーの開催を2016年度から始めました。2017年度は「親子で病院を見学しよう!」と題して9月30日に開催し、大人24名、子ども32名の参加がありました。院内見学の後、大人向けには講演会「血液検査でわかること」を、子どもには「手洗い体験」を実施し、最後にドクターヘリを見学しました。参加者からは「病院内



院内見学ツアーの様子

のさまざまな仕事を初めて知った」「子どもが病院の仕事に興味を持った」と、普段見られない場所を見学できたことへの満足の声が感想として寄せられました。

さらに同病院では、子どもたちに医療に興味を持ってもらうために、手稲区内の中学生を対象とした外科手術体験「ブラック・ジャックセミナー」の開催を続けています。2017年度は7月15日に開催し、35名の中学生が参加。新しくなったF棟手術室を使用して、内視鏡手術支援ロボット「da Vinci」をはじめ、さまざまな手術器具を使った体験を行いました。院内見学ツアー、ブラック・ジャック セミナーの双方とも、今後も毎年開催を続けていく予定です。



ブラック・ジャックセミナー

Challenge

地域の高齢者に、
介護予防や健康増進に
かかわる情報を発信

Action

介護施設を
気軽に集える場として
開放するイベントを実施

Next Step

参加者の感想を聞き、
さらにニーズに合った
情報を発信していく

地域交流の場「こまちテラス」をスタート

〔菊水こまちの郷〕

高齢化が進む中で、病院や施設が介護予防や健康増進のためにもっとかかわっていただくことが求められています。菊水こまちの郷では、地域の方々に健康増進や介護に関する相談、情報提供を行う場として、気軽に集える場となる「こまちテラス」の開催を2017年4月5日から始めました。以降2カ月に1回のペースで開催を続けています。

内容は日常的に取り組める軽い運動から季節に関する話題まで、毎回さまざまな健康増進に関するテーマを取り上げています。また、外部講師を招いて「地域の防災対策」などの地域での生活にかかわる講話も実施。講話の後は、地域交流スペースで飲み物を飲みながら、参加者同士や職員と交流を深めています。

今後も地域の方々に関心を持っていただけるテーマを取り上げ、参加者が増え次第外部講師を積極的に呼ぶなどして、内容を充実させていく予定です。



■2017年度開催実績

開催日	内 容
4月 5日	椅子ヨガ(講師:ヨガの種)
6月14日	夏バテ防止と水分補給
8月 9日	腰痛予防について
10月11日	感染予防シリーズ第一弾 ～感染予防は食事から
12月13日	感染予防シリーズ第二弾 ～感染症予防で元気に年越し!
2月14日	地域の防災対策 (講師:白石消防署予防課 大友達也氏)

Challenge

地域からは見えにくい
介護施設の中を
知ってもらう

Action

高校生を対象に
施設見学の場を設け、
利用者さんと交流

Next Step

介護の仕事を
理解できるよう
見学のあり方を考える

留寿都高等学校1年生の施設見学受け入れと交流

〔きもべつ喜らめきの郷・るすつ銀河の杜〕

きもべつ喜らめきの郷とるすつ銀河の杜では、地域と施設、利用者さんの間をつなぐさまざまな交流活動を進めています。なかでも近郊にある留寿都高等学校とは、これまでも介護福祉士養成に関わる講義・演習の実施や、生徒さんに花壇づくりをしていただくなどといった交流の機会が設けられてきました。

特に、介護施設に触れる機会として、開設以来留寿都高等学校1年生の見学を受け入れており、2017年は5月10日、生徒21名と教員2名が両施設を訪れました。きもべつ喜らめきの郷では2～3名のグループに分かれ、各ユニットで入居者さんと交流し、午後は2班に分かれ、そのうち1班がるすつ銀河の杜に見学に訪れています。

緊張の面持ちだった生徒さんたちも利用者さんとの交流の中で笑顔を見せ、さらに施設長からの説明には真剣にメモを取りながら聞く姿が見られました。介護施設を知ることにより、介護への理解や、介護の仕事への興味が深まることも期待しています。



和やかな雰囲気でお話する留寿都高校の生徒さんと利用者さん

Challenge

医療的ケアを必要とする
子どもが自宅で
家族と暮らせるよう支援

Action

支援にかかわる
地域の専門職の
ネットワークを築く

Next Step

地域の多職種で、
支援が必要な子どもたちへの
チームケアを促進する

第13回子ども在宅ケアネットワーク開催

〔手稲溪仁会病院〕

医療的ケアを必要とする子どもたちが自宅で過ごせるよう、在宅生活を支える専門職の連携を築くことを目的に活動しているのが「子ども在宅ケアネットワーク」です。2012年に活動を開始し、多施設・多職種によって構成される実行委員会で企画・運営しており、手稲溪仁会病院はその事務局を務めています。

2017年9月12日には「(医療的ケアを中心とした)

相談支援って何?」をテーマに、第13回子ども在宅ケアネットワークが開催され、100名超の参加者がありました。相談支援の歴史や制度についての講義、相談支援専門員と医療ソーシャルワーカーによるフリーディスカッションのほか、恒例となっているグループワークを行いました。各グループの多職種で自由な交流を図り、参加者からは「なんでも話せてよかった」

「新たな人とのつながりができた」といった感想が寄せられました。今後も施設や職種の垣根を越えた連携を強め、子どもたちへの支援をチームで行う体制を地域に築くための努力を続けます。



環境への取り組み

地球の環境を守り、未来につなげていくことは、あらゆる事業者が取り組まなければならない使命です。 溪仁会グループでは、環境活動を通して職員の意識向上を図り、地域社会に貢献することをめざしています。



環境保護活動をしながらかく交流を深め合う機会に

おたるドリームビーチ清掃活動

溪仁会グループでは環境保護活動の一環として、2008年度よりおたるドリームビーチの清掃を行っています。職員や家族のほか、学生ボランティアや協力会社の方など、毎回、多くの参加を得て、海水浴シーズン前の砂浜のゴミ拾いを実施。こうした活動は、地域の環境保全に貢献するだけでなく、組織横断的な交流の機会にもなっています。

2018年6月16日には13回目となる清掃活動を行い、166名が参加しました。天候にも恵まれ、ゴミを集めながら、楽しそうに会話を交わす参加者の姿が見られました。当日の清掃活動の様子と参加者の声をご紹介します。



開会式では、溪仁会グループ最高責任者田中繁道理事長が挨拶。「CSR活動には積極的な参加と継続することが大切。仲間と共にこういう体験をすることで、社会貢献活動の意義や交流する楽しさを感じてください」



配布されたゴミ袋を手に、グループや家族に分かれてゴミ拾いを開始



溪仁会円山クリニックから参加したグループ。「ビーチ清掃に参加するようになったことで環境への意識が高まり、道路などに落ちているゴミにも気づくようになりました」



北海道科学大学薬学部ボランティアサークル「桂」の皆さん。「地域のビーチをきれいにして、地域に貢献したい」と参加してくれました



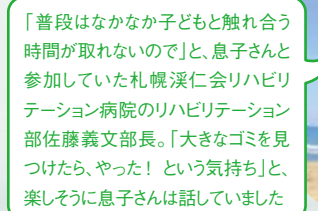
近年は環境意識の高まりもあり、ビーチのゴミは少なくなっていますが、それでもプラスチックゴミやペットボトルなどが次々に拾われていました



1時間ほどで清掃活動は終了。重くなったゴミ袋を手に、参加者が戻ってきました



手稲つむぎの杜の菊地裕一経営管理部次長とご家族。「家族サービスの一つとして、ビーチ清掃や植樹会などの環境活動には家族で参加するようにしています」



「普段はなかなか子どもと触れ合う時間が取れないので」と、息子さんと参加していた札幌溪仁会リハビリテーション病院のリハビリテーション部佐藤義文部長。「大きなゴミを見つけたら、やった！という気持ち」と、楽しそうに息子さんは話していました



閉会式では、溪仁会グループ秋野豊明名誉会長が「こういう活動にお子さんが多く参加されることで、その思いが次代に引き継がれていく。これからもぜひ続けてほしい」と話し、清掃活動を締めくくりました

未来に続く
さまざまな
環境活動

電気自動車を地域活動に活用 ―定山溪病院

定山溪病院では、2017年から株式会社日産自動車より電気自動車「e-NV200」を3年間無償貸与していただき、環境負荷の低減に役立っています。2017年4月25日に行われた定山溪温泉街の清掃活動では、ゴミの運搬や参加者の送迎などで活躍しました。同病院では引き続き、地域の活動や患者さんの送迎などに電気自動車を活用していきます。



リングプルを回収して車いすを寄贈 ―溪仁会グループ

溪仁会グループでは、社会貢献と環境活動の一環として、リングプルを回収して車いすと交換し、さまざまな施設に寄贈する取り組みを行っています。2017年8月7日には株式会社札幌丸井三越に通算7台目となる車いすを寄贈しました。今後も患者さんや利用者さん、ご家族など多くの方のご協力をいただきながら、この活動を続けていきます。



未来の森をつくる植樹会 ―社会福祉法人溪仁会

2017年9月16日に、社会福祉法人溪仁会が主催する第6回植樹会が、職員とその家族約80名の参加のもと、当別町住民の森神居尻地区で開催されました。300本のアカエゾマツを植えたほか、お子さん向けの森づくり教室では再生紙段ボールを使った植樹ポット「カミネッコン」の作成体験などを行い、環境意識の向上を図りました。



信頼される組織であるために

医療や保健、福祉に携わる者として、溪仁会グループは誠実な組織づくりに取り組んでいます。さまざまな生き方や考え方を尊重し、社会から信頼される活動を推進していきます。

Human
story⑤

組織横断的な研修会が情報共有や相互理解の機会に。 顔の見える関係づくりが、質の高いサービスを実現する。

溪仁会グループは、病院や施設、事業所などの所属に関係なく、職員が組織横断的に交流し、知識や技術を高め合う活動を重視しています。2015年からは、グループ内の全セラピスト（理学療法士・作業療法士・言語聴覚士）を対象にした「溪仁会グループリハビリテーション研修会」を開催。セラピストたちが自主的に企画・運営を行い、知識の向上を図っています。

同研修会の立ち上げにかかわり、2017年まで研修委員として運営に携わってきたのが、札幌溪仁会リハビリテーション病院で言語聴覚士のリーダーを務める臨床統括センターの高橋春香主任です。高橋主任は2004年に定山溪病院に入職後、西円山敬樹園、コミュニティホーム白石など、グループ内の病院や施設を異動。さまざまな現場を経験したことで、組織横断的にセラピストが集う機会の必要性を感じるようになっていました。「病棟の機能や施設ごとのサービスの違いなど、同じ溪仁会グループでも知らないことがたくさんあるはず。研修会をきっかけに互いの職場や仕事の理解につながり、顔が見える関係を築くことができればと考えました。また、患者さんや利用者さんがグループ内の病院や施設を移動する場合、情報のやり取りがスムーズになるのでは、という期待もありました」

札幌溪仁会
リハビリテーション病院
臨床統括センター
主任
高橋 春香



研修会では、高齢者ケアや認知症、呼吸器疾患など、セラピストに共通するテーマを取り上げるようにしています。毎回100名を超える参加があり、グループワークや実技を交えて、実践的に学んでいます。知識の向上につながると好評を得ていますが、交流を推進するのはなかなか難しい、と高橋主任は言います。「立ち上げ時の最大の目的が、交流を図るための研修会にすることでした。一過性の交流に終わらせることなく、その後の関係に結びつけていくには、何が必要なのか、本当の意味での交流とは何なのだろうか。研修委員として深く考えさせられました」。この経験をもとに、高橋主任は今年から「溪仁会グループST（言語聴覚士）交流研修会」を立ち上げました。ゆくゆくは担当を持ち回り制にすることで、病院や施設間の交流を促していきたいと考えています。

現在は、嚥下機能の低下や失語症など、さまざまな症状の患者さんのリハビリテーションを担当する一方、医師や管理栄養士などと連携して食支援の啓発を行う地域活動も始めています。「今後は、社会貢献活動として、医療や福祉にかかわる人に向けた嚥下の勉強会なども開いていきたい」と目を輝かせる高橋主任。常に高い目標を掲げながら、仲間と共に質の高いサービスをめざしています。

Human
story⑥

誰もが能力や個性を活かしながら、 自信を持って働くことができる組織をめざしたい。

社会福祉法人溪仁会は、施設や事業所で働く職員たちが法人の未来を自ら考え、そこで思い描いた姿をかたちにしていく「夢プロジェクト」（P36参照）を立ち上げました。中堅のリーダー層を中心に、さまざまな現場から多職種が集まり、意見を交わしながら将来像を模索する取り組みがスタートしています。

同プロジェクトのメンバーに選ばれたコミュニティホーム白石リハビリテーション部の小路めぐみ主任は入職10年目。通所リハビリテーションの利用者さんを中心に、在宅で安全に暮らしていただくためのリハビリテーションや支援を行っています。利用者さんの人生に寄り添い、支える作業療法士として、ご本人やご家族の声に耳を傾け、生活の中で困っていること、やってみたいことなど、目標を明確にした上でリハビリテーションを行うことを心がけていると話します。「目的をはっきりさせることで、それが達成できたときの喜びや自信につながります。その方の目標の実現に向けて、他の職種とも連携しながら支援しています」

現在、同プロジェクトでは数カ月に一度、テーマを決めてミーティングを行い、グループワークや意見交換などを行っています。「テーマは自由」と言われ、最初はとまどったという小路主任ですが、回を重ねる

うちに「自分たちの組織をより良くするために取り組むべきことを認識し、協力しながらその目標に向かって進んでいくことが大切なのだ」と、プロジェクトの狙いを理解するようになっていきました。また、話し合いをする中で、他の施設の取り組みや課題を知ることができたのも大きな収穫でした。

これからは、ミーティングで出された意見などを職場に持ち帰り、それに対する同僚たちの考えをまとめて、プロジェクトの場にフィードバックすることが求められます。「そのためには、職場でいかに多くの人にプロジェクトへの関心を持ってもらい、どうやって意見を集約するかが課題」と小路主任。試行錯誤しながら、より多様で柔軟な発想を取り入れる活動をめざしています。

小路主任には、思い描く理想の法人像があります。それは、職員一人ひとりが自分の能力を発揮でき、自信を持って働くことができる組織になること。そのための環境づくりにも取り組みたいと考えています。「責任もありますが、このプロジェクトには、夢をかたちにしていく楽しみがあります。スタートしたばかりで具体的な内容を考えるのはまだまだ先ですが、夢を描くだけで終わらせないように、私たちのめざすべき姿を考えていきたいと思います」

コミュニティホーム白石
リハビリテーション部
主任
小路 めぐみ



Challenge⑤ 介護現場と地域のマンパワーのマッチングへ

介護の現場の人手不足は、今後さらに進むといわれています。
その業務を見直し、専門性が必要とされない業務について、
元気な高齢者や地域の方々の力をお借りするプロジェクトが進んでいます。

Action

補助的な仕事を地域の方々に担っていただき労働環境を向上
介護アシスタント事業への取り組み

介護の担い手不足が進み、現場で働く介護職員の負担の増加が懸念されています。特に日常生活の介護・支援が常に必要な入居施設では、現在でも、介護福祉士などの有資格者である職員が、専門性を必要とする介護サービス業務よりも、洗濯や物品管理などの付随業務に多くの時間を割かれていました。

そこで主にリタイア後の元気な高齢者を対象に、地域住民に介護施設の付随業務の一端を担っていただく取り組みが始まっています。これは「北海道人材活用モデル事業」の一環で、札幌・胆振・空知の道内3圏域6施設で「介護アシスタント」事業が実施され、そこに月寒あさがおの郷が参加しました。事前説明会を行い、時間や曜日、業務内容について希望が合致した12名を採用。10月23日から3カ月間、洗濯物をたたむ、食器を洗う、物品の管理といった業務を担当していただきました。

「以前は利用者さんとお話する間も、常に何か他の業務を行っていました。利用者さんが何を思い、何がしたいのか、集中して向き合う時間がほしいと思うことが多くありました」と現場の牧野桜子介護福祉士は説明します。「介護アシスタントの方々がいることで利用者さんとかかわる時間が増え、気持ちにゆとりができました。利用者さん自身ができることを待つ時間が持てたことは、残存機能を活かすことにもつながっていると感じます」

介護アシスタント参加者からも、「勤務時間・業務内容ともに都合に合わせやすい」「長く続けることができる」と良い評価をいただきました。モデル事業の期間終了後も、希望があった8名に



就労希望の12名にはオリエンテーションを実施。希望の時間帯などを確認しました



バックヤードでの物品管理を担当される方もいます



月寒あさがおの郷
介護福祉士
牧野 桜子



業務が発生する時間にかぎられますが、その中で6:30～9:30、19:00～22:00など参加者の希望に合わせたさまざまな時間で勤務をしていただいています

は勤務を継続していただき、その後1名を加え、現在は54歳～71歳の9名が就業しています。牧野介護福祉士は「参加者の方の中には、自分たちも何年か後にはこういう介護を受けるかもしれない、とおっしゃる方もいました。地域の方の目が近くにあることで、私たちもより良いケアとは何かを見つめ直す機会になっています」と話します。

課題としては、既存のボランティアや札幌市の介護サポーターと比較した際の業務の明瞭化・差別化が必要なこと、介護アシスタントが業務に慣れた後の業務量と稼働時間との整合性を図ることなどが挙げられます。今後はレクリエーション提供など、参加者のやる気やスキルを活かした業務内容に発展させていくことも検討しています。

介護アシスタント参加者の声

- この年齢で働けることはありがたい。活躍できる場があり、生活に張りが出る。
- 施設の中はビビリした空気なのかなと思っていたが、実際は柔らかな感じで働きやすく、施設の事業が理解できてよかった。
- 直接の介護以外の業務がたくさんあることがわかった。介護士さんなど、施設で働く人がより働きやすいように役に立てばいい。今後もこの事業は進めるべき。
- 同じことを行うのに、職員によって対応が違う時があり戸惑う。「アシスタント」業務について職員側の理解の統一を図ってほしい。

Challenge⑥ 介護や福祉を通じた国際交流の取り組み

社会の急速な高齢化は、今後、世界的な課題になると考えられています。
社会福祉法人溪仁会の質の高いサービスや、溪仁会グループのシームレスな取り組みは、
先進的な高齢者ケアの事例として、海外からも関心を集めています。

Action

情報提供や交流事業への協力で国際貢献をめざす
中国江蘇省との交流活動

中国江蘇省シルバー産業協力代表団が、札幌市の桑園地区と西円山地区にある溪仁会グループの病院や施設を視察されました

日本是世界で最も高齢化率が高く、高齢者福祉への取り組みが世界から注目されています。65歳以上の人口が9.6%（日本は26.6%／2015年度の統計）という中国でも、今後は急速に高齢化が進行すると予想されることから、日本の先進事例を参考にしようという動きが盛んになっています。

2017年9月21日から23日にかけて、江蘇省南京市で「江蘇省高齢者産業・福祉フォーラム」が開催され、社会福祉法人溪仁会からカムヒル西円山の三好誠施設長が参加しました。これは、国際協力事業を行うJICE（一般財団法人日本国際協力センター）の依頼によるもので、三好施設長は分科会において「医療・介護連携の探索と実践」をテーマに、医療や福祉、介護がシームレスに連携した溪仁会グループの活動や、福祉施設の運営について講演。また、江蘇省老年病院を見学し、情報交換や今後の交流の在り方などについて話し合いました。

三好施設長は「江蘇省は医療や介護に対する取り組みに熱心な地域で、当グループの連携体制に高い関心が寄せられていました。中国には日本のような介護保険制度がないため、医療や介護サービスを受けられない高齢者も多く、一人ひとりの方に合わせたケアマネジメント体制や、施設の機能分化といった日本独自の福祉制度に対しても興味深いようでした」と現地での反応を振り返ります。

このフォーラム参加がきっかけになり、2018年4月23日に「中国江蘇省シルバー産業協力代表団」が視察に来訪されました。



カムヒル西円山
施設長
三好 誠

溪仁会グループの札幌溪仁会リハビリテーション病院、札幌西円山病院、西円山敬樹園、カムヒル西円山、グループホーム西円山の丘を見学後、意見交換を行いました。視察団からは、高齢者を敬う姿勢と施設間の円滑な連携体制などが高く評価され、「とても参考になった」「今後も交流を続けたい」という意見が出されました。

この交流で、「福祉や医療には心が大切、という思いはどの国でも共通なのだと感じ、初心に返ることができました」と感想を話す三好施設長。今後は人材の派遣や受け入れなども視野に、世界共通の課題解決に向けて協力を続ける考えです。



札幌溪仁会リハビリテーション病院での視察の様子



視察後は質疑応答や意見交換などが行われました

More Actions ミャンマー健康スポーツ省が視察訪問

2017年6月1日に、ミャンマーの健康スポーツ省の視察団4名が、きもべつ喜らめきの郷を来訪されました。これはミャンマーにおける福祉職員の人材育成制度立ち上げの参考にするための視察で、喜茂別町がミャンマーとの交流事業を推進していることから、同施設も訪問先となりました。視察団からは「施設内の至る所に手すりが備えられていて、高齢者への配慮がある」「羊蹄山の眺めがすばらしい」といった感想が聞かれました。



Challenge

メンタルの不調や
ハラスメント発生など職場の
トラブルを未然に防ぐ

Action

管理職を対象に
働きやすい職場づくりに
向けた研修を実施

Next Step

各相談窓口への
アクセス向上などより良い
職場環境を作るため啓発

メンタルヘルス・ハラスメント・労務管理研修会を開催

〔浜仁会グループ〕

2017年9月15日に浜仁会ビルで「役職者のためのメンタルヘルス・ハラスメント・労務管理研修会」が開催されました。これは役職者を対象とした、職場でメンタルの不調やハラスメントが発生することを未然に防ぐ方法を学ぶための研修です。医療法人浜仁会法人本部総務部の藤井裕康部長が労務管理研修を担当し、役職者の役割について説明。次に手稲浜仁会病院の産業医・精神科専門医 羽岡健史医師がメンタルヘルス・ハラスメントについて講義。70名の参加者から事前アンケートで質問を集め、質問への回



総務部藤井部長の講演

答や事例を交えながら説明し、その後グループワークで各自が職場ですぐにできることを考え、実践的な学びとしました。

参加者からは「規程を詳しく知ることができてよかった」「グループワークで具体的な行動を考えられたので、明日から実践したい」といった感想が聞かれました。また、役職者だけでなく一般職員向けの研修を開催してほしいという意見も上がりました。

2018年度以降も開催を継続するほか、今後はグループ内の「まめやか相談室」など各相談窓口についても広く案内し、より良い職場環境を作るための啓発活動を行っていく予定です。



快適な職場づくりのための自分の行動を考えるグループワークを実施しました

Challenge

診療の成果を
外部へ発信し、職員の
レベルアップの機会に

Action

心不全の
重要な症例について
学会に参加し発表

Next Step

成果を共有し、
研究発表を活発にする
空気を醸成

日本心不全学会学術集会の特別企画で優勝

〔手稲浜仁会病院〕

2017年10月12日から14日まで、第21回日本心不全学会学術集会が秋田市で開催されました。全国から心不全診療を専門とした医師・コメディカルが集い、活発な議論がなされました。

その中の特別企画で、心不全の治療に高い関心を持つ40歳以下の医師によるグループ「U40心不全ネットワーク」の企画として行われた“HF-Japan Championship 2017”に、手稲浜仁会病院循環器内科の佐藤宏行医師、石井奈津子医師と大久保拓哉看護師のチームが参加。同チームは「右胸心・VSD術後遠隔期に重症心不全を呈した1例」を発表し、見事優勝チームに選ばれました。

心不全診療は、入退院を繰り返す経過の中で、いかに医療従事者と患者さんが治療に向けてのゴールを共有し、チーム医療で挑んでいけるかが大切で



前列右2人目から左へ佐藤医師、石井医師、大久保看護師

す。同病院では今後も質の高い診療を続け、その成果を全国へと発信していけるよう、職員の学会参加を推進していく考えです。

Challenge

CSR経営と
その報告としての
CSRレポートの発行継続

Action

継続的な取り組みが
外部から評価される

Next Step

地域の模範となるような
経営を確立し
情報発信を続ける

札幌商工会議所のCSR経営表彰を受賞

〔浜仁会グループ〕

浜仁会グループはCSR経営を掲げており、その取り組みを報告するCSRレポートの発行を2006年から継続しています。そのことが評価され、札幌商工会議所の主催する「CSR経営表彰」の地域・社会貢献部門で表彰を受けました。

CSR経営表彰とは、地域社会の維持や環境問題など、持続可能な社会構築のために、CSR活動に積極的に取り組む企業・団体を表彰するもので、2016

年に創設されました。2017年度は地域・社会貢献部門34社、環境貢献部門9社が受賞。2018年1月23日に、札幌パークホテルで表彰式が行われました。

選考委員を務めた北星学園大学の松本康一郎教授からは、「活動の継続性や独自性に重点を置き、さらにそれらが企業の成長につながっているかどうかを評価した」と説明がありました。



平成29年度会員表彰式の中で、CSR経営表彰が行われました

Challenge

蘇生が必要な場面で、
職員が自信を持って
対応できるようにする

Action

施設独自のAED研修が
できるように設備を導入

Next Step

各施設でも職員が
現場で必要な知識を
得られる研修を充実させる

AED・CPRトレーニングキットを導入し全職員に研修

〔きもべつ喜らめきの郷・るすつ銀河の杜〕

高齢の利用者さんが多く入居する介護施設では、利用者さんに不整脈や心肺停止などが起こったときの蘇生法を学んでおくことが不可欠です。

きもべつ喜らめきの郷とるすつ銀河の杜では、これまで外部講習などで心肺蘇生法(CPR)を学んできましたが、全職員の対応力を上げるためにAEDと心肺蘇生のトレーニングキットを2017年度に購入。2017年11月から2018年3月にかけての12日間で、

全職員57名を対象としたAED研修を実施しました。救命資格の修了証を発行することができる「応急手当普及員」研修を受講した職員が講師役を務めています。

参加した職員からは、「過去に研修を受けてはいたが、AEDを使える自信がなかった。この研修で再確認でき、万が一のときは使えるようになった」「定期的に繰り返し練習を続けたい」という感想が聞かれました。

今後は新入職員が入るタイミングなどで、継続的に研修を実施していく予定です。また、制度変更などを見据え、グループや法人主催の研修だけでなく、施設独自の研修も充実させていきたいと考えています。



講師役の職員の説明により、AEDの使い方の手順を学びました



ダミー人形を用いて、心臓マッサージを体験

誰もが生き生きと働くことができる 魅力ある組織づくりをめざして

社会福祉法人としての未来像を 自分たちで考え、実現するために

少子高齢化が進み、医療や福祉の制度が見直される中、社会福祉法人を取り巻く環境も大きく変化しています。これからの社会福祉法人には、現状維持で満足せず、常に新たな取り組みに挑戦しながら、組織の活性化や職員の資質向上を図っていく姿勢が重要になると考えています。こうした背景から、社会福祉法人 溪仁会では職員が自ら考え、行動できる組織をめざし、さまざまなプロジェクトを立ち上げています。

「夢プロジェクト」は、各施設から選抜された若手の役職層に、当法人の未来像を考えてもらう取り組みです。メンバーには、プロジェクトでの検討内容を施設で共有し、全職員に参画意識を持ってもらうこと、さらにそうした活動を通して、リーダーとして成長してもらうことを期待しています。女性管理職による「なでしこねっと会議」は、女性が働きやすい職場づくりを検討し、具体的な提案を行うものです。労働環境の改善に向けた第一歩として、外部の保育施設と提携を始めています。

両プロジェクトに共通しているのは、自分たちが働く施設や組織をどうしていきたいのかを、自ら真剣に考える機会だということ。それぞれのテーマに沿って幅広い知識や情報を収集し、現状との違いを認識した上で、各自が積極的に意見を出し合いながら、前向きな検討を続けてほしいと考えています。

職員の思いを組織運営に活かすプロジェクト

新しい法人像をめざす「夢プロジェクト」

社会福祉法人 溪仁会の中期ビジョン「ビジョン福祉40」の取り組みの一つとして、法人創立40周年を迎える2021年に向け、「法人のあるべきすがた」を検討し、「夢をカタチにする」プロジェクトです。2017年11月の第1回会議を皮切りに、約4年間をかけてさまざまなテーマについて話し合い、具体的な提言を行っています。



社会福祉法人 溪仁会
理事長
谷内 好



地域との共生を見据え 多様な人材が協働できる組織に

介護職員の不足が課題になる中、今後は少ない人数でいかに最大限の効果を生み出すか、という意識を持つことが求められます。例えば、日本の高齢者介護は、至れり尽くせりと言えるほど充実していますが、その方の自発性や自立性を尊重することも大切な視点です。そうした考え方でケアプランを作り、在宅復帰を支援するというプロセスも必要ではないかと思えます。

これからの介護や福祉を支えていくには、障害のある方や元氣な中高年の方、外国人労働者など、多様な人たちが協働できる労働環境の整備が急務になると予想されます。現在の業務や制度の見直しを進めると同時に、多様な人材をマネジメントできるリーダー層の育成にも取り組んでいく考えです。

国は2018年度から、地域にあるリソース（資源）を有効活用する「共生型サービス」を打ち出しました。当法人では、地域と共に歩む介護・福祉事業の展開も共生の一つとらえ、積極的な情報発信によって、地域の方々に私たちの取り組みを知っていただき、理解を深めていただく活動を重視しています。

介護・福祉のプロフェッショナルとして職員のベクトルを合わせ、共に働いていくことが、組織の強さや発展につながります。夢を持って働くことができる未来を思い描きながら、社会福祉法人としてのミッションを追求し続けていきます。

※溪仁会グループでは人材を宝として「人材」と表記しています

女性の活躍を支援する「なでしこねっと会議」

女性が働きやすい職場づくりを進め、女性の管理職登用を積極的に推進することを目的に、2017年1月より開催しています。会議では相互理解、課題の共有、職場環境改善提案を目的に、組織横断的に意見交換が行われます。女性の視点から職場環境や制度を見直し、仕事と家庭の両立を支援することをめざしています。

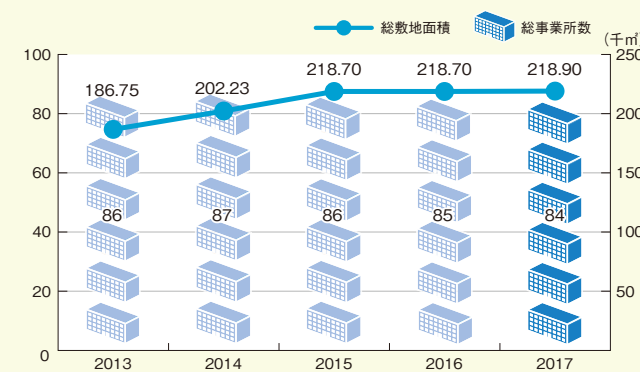


数字で読み解く 溪仁会グループ

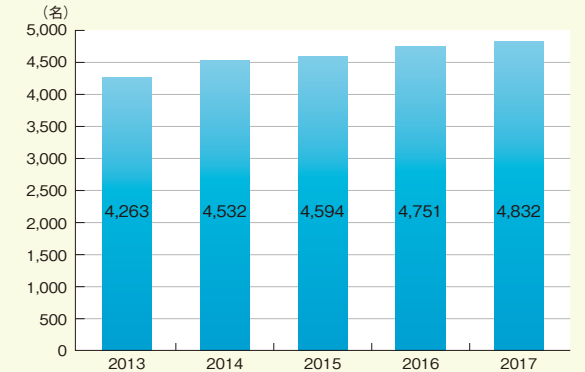
溪仁会グループの活動にまつわるさまざまな数字をご紹介します。

基本データ編

● 総事業所数と総敷地面積

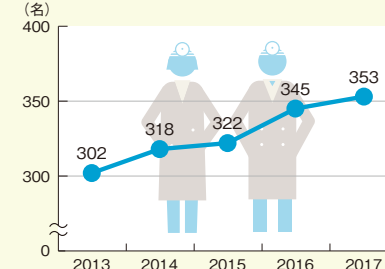


● グループ職員総数の推移

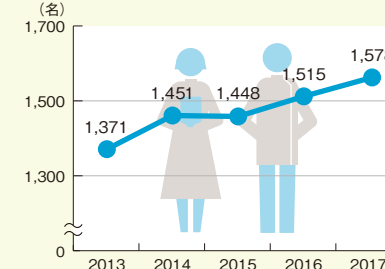


グループ職員数の推移詳細

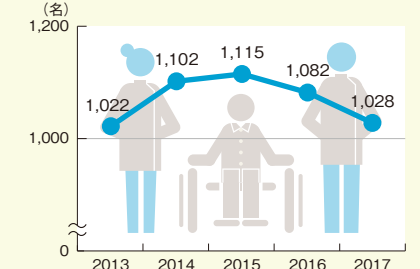
● 医師数



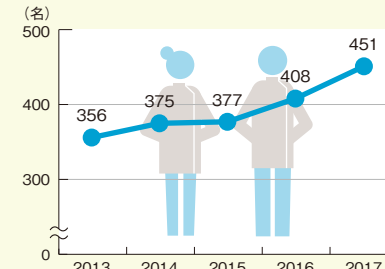
● 看護職員数



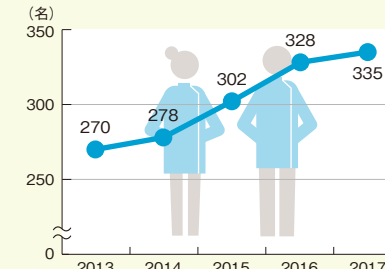
● 介護職員数



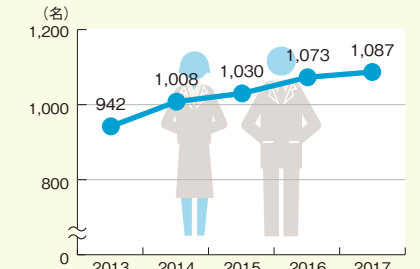
● セラピスト数



● それ以外の医療資格者数

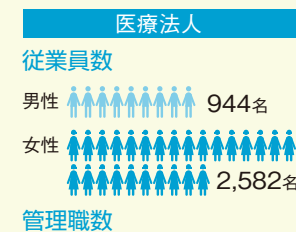


● 事務職員その他

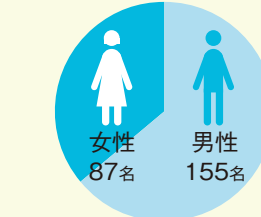


職場環境づくりに関する数字

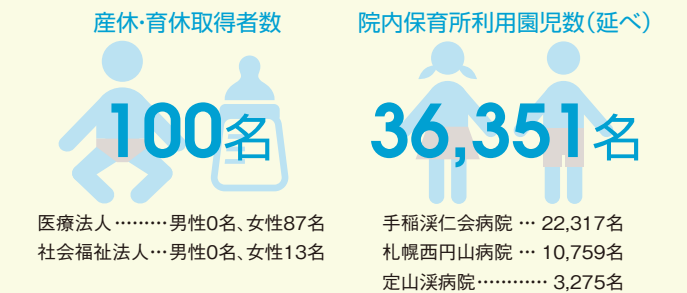
● 男女別職員数



管理職数



● ワークライフバランス



● 障がい者雇用率



医療・保健のデータ編

●総ベッド数

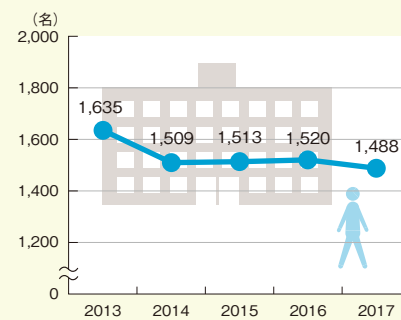


手稲溪仁会病院 670床
手稲家庭医療クリニック 19床
札幌溪仁会リハビリテーション病院 143床
札幌西門山病院 603床
定山溪病院 386床

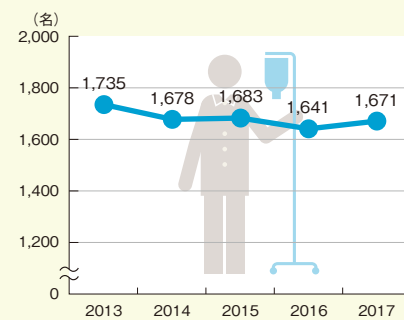
●ドクターヘリ出動件数



●1日あたりの外来患者数

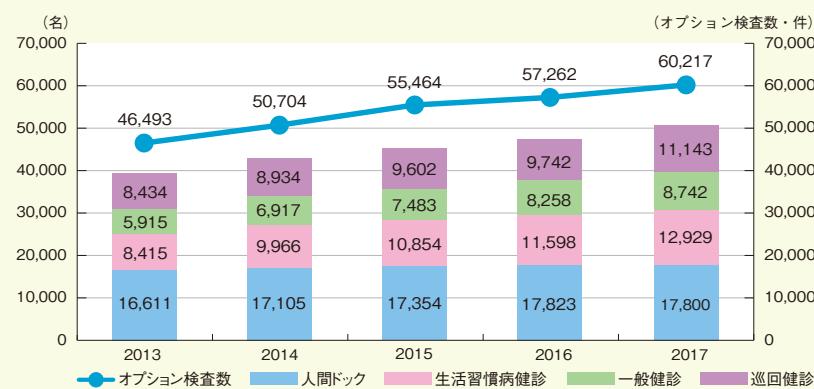


●1日あたりの入院患者数



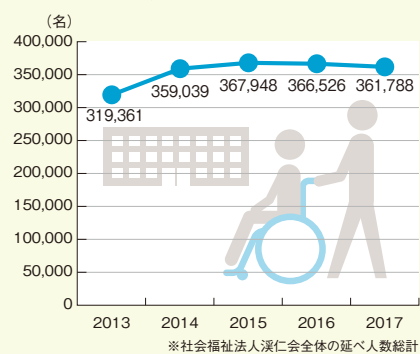
※医療法人溪仁会全体の平均の推移
※2016年度は札幌溪仁会リハビリテーション病院開院準備中

●健診・オプション検査の受診数 (溪仁会円山クリニック)



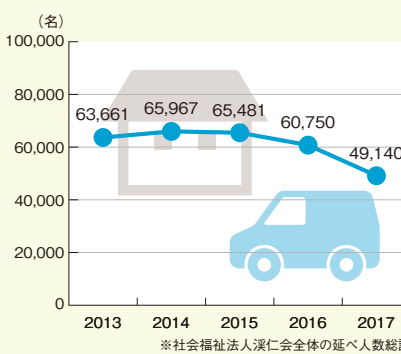
介護・福祉のデータ編

●施設入所者数



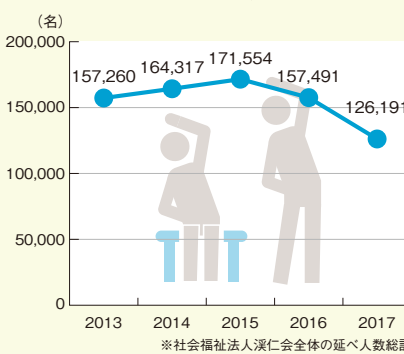
※社会福祉法人溪仁会全体の延べ人数総計

●訪問サービス利用者数



※社会福祉法人溪仁会全体の延べ人数総計
※在宅サービス: 訪問介護・訪問看護・訪問リハ

●通所サービス利用者数

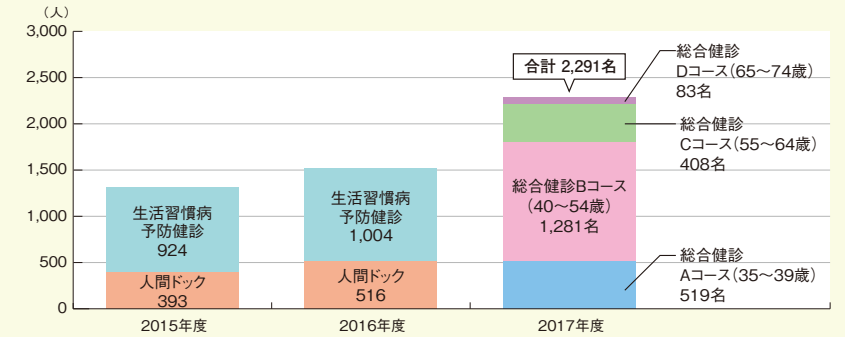


※社会福祉法人溪仁会全体の延べ人数総計
※通所サービス: 通所介護・通所リハ

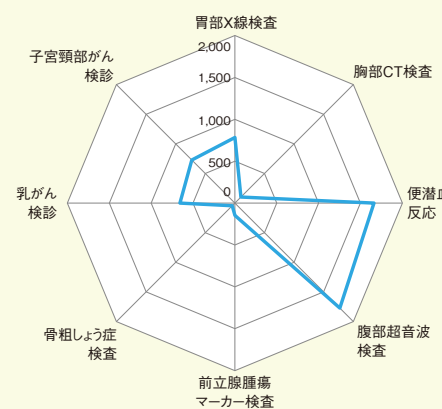
溪仁会健康保険組合のデータ編

●被保険者(35歳～75歳未満)の 健保補助を利用した年度別健診実績

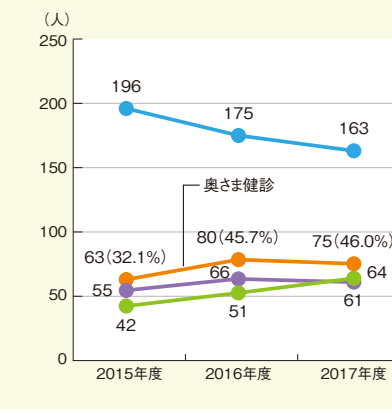
溪仁会健康保険組合には、現在グループ全職員とご家族6,515名が加入しています。2017年度は被保険者の総合健診を溪仁会円山クリニックで実施したことにより、受診数が増加しました。さらに早期に健診結果の把握が可能となり、事後指導を開始できるようになりました。



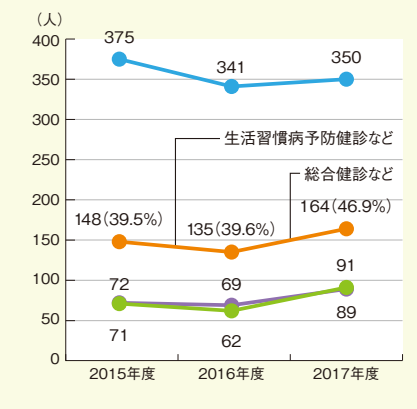
●被保険者(35歳～75歳未満)が 健保補助を利用したがん検診などの 2017年度受診実績



●被扶養者(39歳以下の女性 配偶者)の奥さま健診などの 年度別受診実績

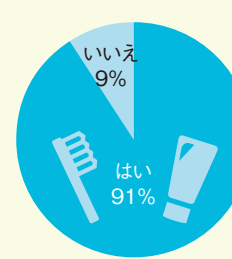


●被扶養者・任意継続加入者(40歳から 75歳未満)の生活習慣病予防健診 (特定健診)などの年度別受診実績

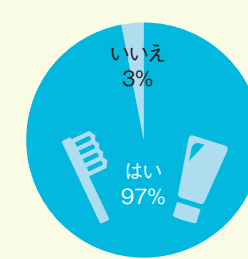


●お昼の歯みがきキャンペーン

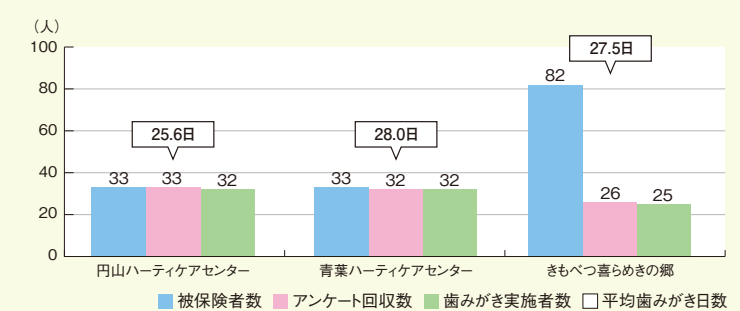
データヘルス計画(保健事業)の一環で、歯周病予防の啓発活動を行っています。前年度と比較し、歯科医療費の増加幅の大きい3事業所の被保険者全員に歯みがきセットを配布、30日間食後の歯みがきを実行してもらいました。歯みがきは「自覚症状の改善」が実感できるため、歯周病予防には日ごろの口腔ケアが重要であり、早期治療・健康意識向上につながっています。



お昼の歯みがきが習慣になりましたか?



キャンペーンが終わった後もお昼の歯みがきをつづけますか?



Pick Up

いろいろ データ編

溪仁会グループの活動に関するユニークな数字を集めてみました!

●溪仁会グループで 1日に消費されるお米の量



茶わん(1杯分約65g)に換算すると、毎日5,500杯以上のお米が消費されています。
※手稲溪仁会病院、札幌溪仁会リハビリテーション病院、札幌西門山病院、定山溪病院、溪仁会円山クリニック、社会福祉法人溪仁会の合計

●リングブル累計回収量



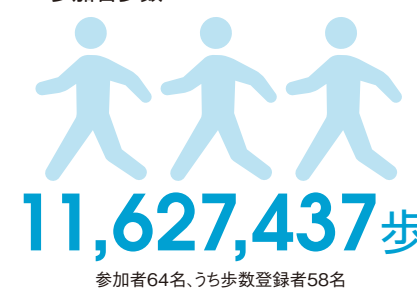
リングブル(1つ0.5g)は700kgにつき1台の車いすと交換が可能です。2017年度には、通算7台目となる車いすの寄贈ができました(P29参照)。

●溪仁会グループ研究発表会の 累計演題数



1989年から溪仁会グループ研究発表会を毎年開催しています。第1回には12演題の発表だったのが、2011年からは毎年100演題を超えるようになりました。

●「あるろく」ウォーキングキャンペーン 参加者歩数

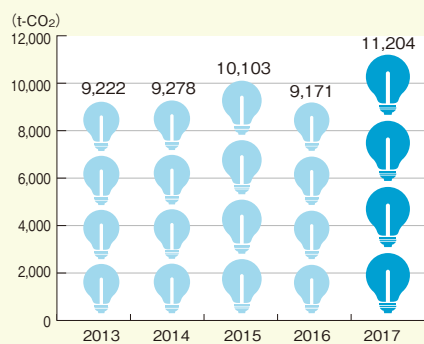


「あるろく」とは...

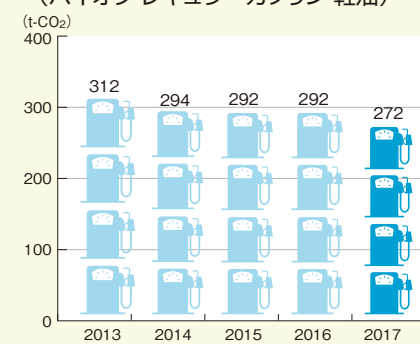
健保連が主催するWebコンテンツで、キャラクター集めや歩数ランキングなど楽しみながら歩数の管理ができます。2017年9月15日～11月14日に、参加者の歩数に応じて熊本地震の被災地に寄付金が送られる「ウォーキングキャンペーン」が実施され、溪仁会健康保険組合も参加しました。健保連の全体の集計によると、46組合が参加し230万円の寄付金が熊本へ届けられました。

環境データ編

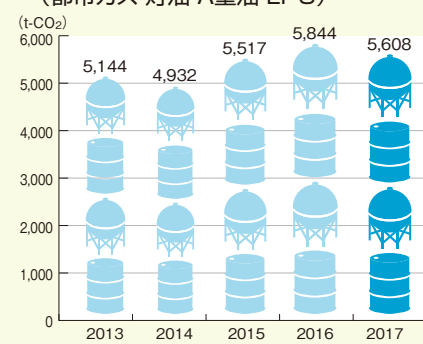
●電気使用量



●車両燃料 (ハイオク・レギュラーガソリン・軽油)



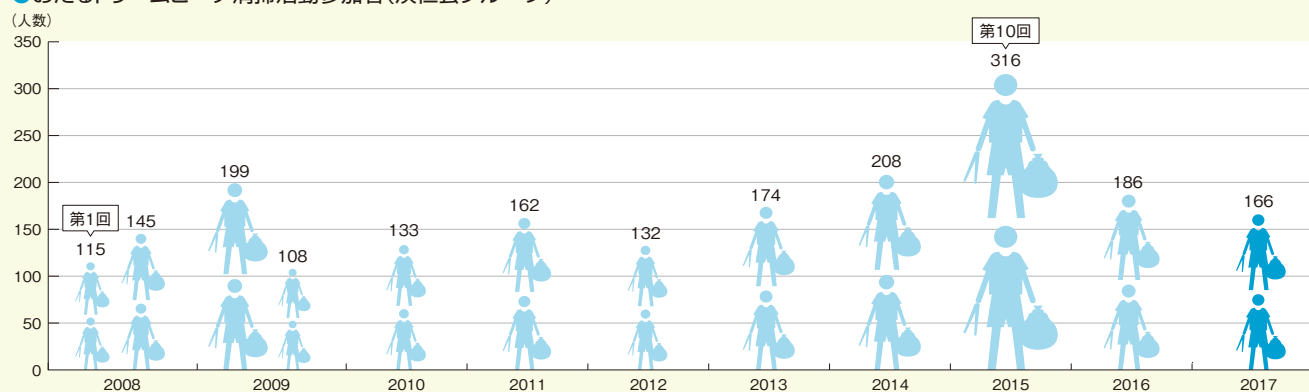
●建物設備維持燃料 (都市ガス・灯油・A重油・LPG)



環境負荷のデータはすべて医療法人のみ。

札幌溪仁会リハビリテーション病院が開院し、電気使用量などが増加しましたが、グループ全体でさまざまな環境活動に取り組んでいます。

●おたるドリームビーチ清掃活動参加者(溪仁会グループ)

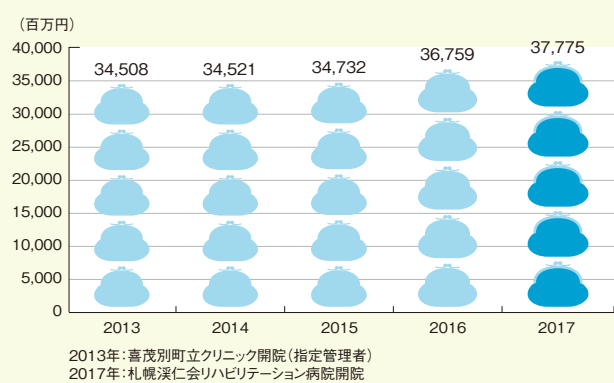


財務のデータ編

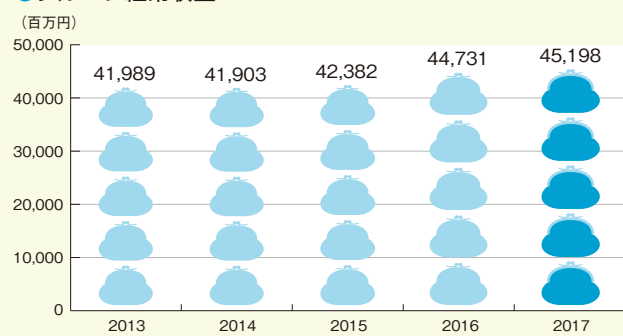
●2017年度の各法人の収益(単位: 百万円)

医療法人溪仁会	経常収益	37,775
社会福祉法人溪仁会	経常収益	6,500
その他関連法人 (株式会社ソーシャル、 医療法人稲生会 など)	経常収益	923

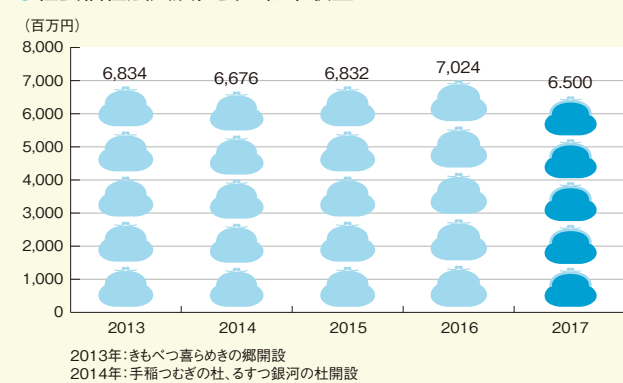
●医療法人溪仁会 経常収益



●グループ経常収益



●社会福祉法人溪仁会 経常収益



各事業所の数字

手稲溪仁会病院

治療とケア

●外来延べ患者数	179,281名(1日平均717名)
●入院延べ患者数	214,762名(1日平均588名)
●平均在院日数	9.9日
●病床稼働率	88.2%
●チーム医療	
クリニカルバス施行数	8,122件(施行率47.1%)
クリニカルバス種類	223種類(2018年3月末現在)
栄養食事指導件数	外来2,912件/年、入院8,374件/年(非加算指導含)
NST(栄養サポートチーム)介入延べ患者数	2,975件/年
服薬指導件数	17,549件
リハビリテーション実施単位数(入院・外来合計)	278,462
●救急医療	
救急患者数	21,008名(内救急車、ヘリ搬送患者数5,284名)

手稲溪仁会クリニック

治療とケア

●外来延べ患者数	121,018名(1日平均484名)
●職員数	76名

手稲家庭医療クリニック

治療とケア

●外来延べ患者数	23,218名
●入院延べ患者数	5,468名
●訪問診療(往診含)延べ患者数	4,209名
●看取り患者数	病棟109名/在宅70名
●予防接種実施人数	3,189名
●栄養指導実施数	1,331件
●訪問看護延べ利用者数(はまなす訪問看護ステーション)	12,723名
●職員数	73名

札幌西円山病院

リハビリと療養

●外来延べ患者数	20,133名(1日平均89.8名)
年齢別外来患者割合	50歳未満22.0%、50歳～60歳未満11.5%、60歳～70歳未満14.6%、70歳～80歳未満18.9%、80歳～90歳未満22.2%、90歳以上10.8%
●入院延べ患者数	213,506名(1日平均584.9名)
●入院患者平均年齢	80.5歳
●患者分類別状況(入院)	
医療療養病床	医療区分1・1.1%、医療区分2・66.3%、医療区分3・32.6%
●地域別患者数	
札幌市内500名(中央区176名、西区78名、その他246名)、石狩3名、後志16名、空知21名、胆振・日高12名、その他道内16名、道外1名	
●リハビリテーション実施単位数(入院)	497,465(医療保険495,962/介護保険1,503)
●職員数	836名

溪仁会円山クリニック

保健

●健診受診者数とその比率	
人間ドック	17,800名(35.1%)、生活習慣病健診12,929名(25.5%)、一般健診8,742名(17.2%)、巡回健診11,143名(22.0%)
●オプション検査数内訳	
婦人科検査(乳がん、子宮がん、卵巣がん)	18,597名、CT検査(頭部、胸部、腹部)3,009名、その他(胃内視鏡、腫瘍マーカー、骨粗しょう症検査)38,611名
●契約団体数	保険者38団体、事業所数約3,000件
●職員数	129名

●診療関連	
年間手術件数	8,479件(手術室で行われた手術すべての数)
難易度別手術割合	高難度(E)1.4%、中難度(C-D)94.1%、低難度(A-B)4.5%
年間消化器内視鏡検査数	14,250件
●周産期医療	
年間分娩件数	618件
NICU稼働率	77.0%(他病棟転出患者含む)
●地域医療連携(連携医療機関数)	584機関(病院115、クリニック469)
連携登録医師数	661名(病院143名、クリニック518名)
患者紹介率/逆紹介率	77.1%/65.7%
●職員数	1,692名

札幌溪仁会リハビリテーション病院

リハビリとケア

●外来延べ患者数	4,495名(1日平均21.9名)
●入院延べ患者数	34,369名(1日平均113.1名)
●入院患者平均年齢	74.2歳
50歳以下8.6%、51歳～60歳7.0%、61歳～70歳17.5%、71歳～80歳25.8%、81歳～90歳30.5%、91歳以上10.6%	
●平均在院日数	57.2日
●在宅復帰率	88.2%(2017年8月～2018年3月)
●リハビリテーション実施単位数(入院)	152,834
●訪問リハビリテーション実施単位数	9,582(医療保険5,288/介護保険4,294)
●実績指数(点)	30.62(2017年8月～2018年3月)
●職員数	255名

※注記があるもの以外は2017年6月1日～2018年3月31日の実績

定山溪病院

リハビリと療養

●外来延べ患者数	13,611名
●入院延べ患者数	135,198名
●入院患者平均年齢	75.0歳
40歳未満1.7%、40歳～50歳未満5.6%、50歳～60歳未満8.4%、60歳～70歳未満16.2%、70歳～80歳未満24.8%、80歳～90歳未満29.2%、90歳以上14.2%	
●地域別患者数	
札幌市内292名(南区157名、その他135名)、後志26名、石狩16名、空知11名、小樽7名、倶知安7名、岩内4名、留萌3名、上川3名、胆振2名、共和1名、余市1名、ニセコ1名、喜茂別1名、積丹1名、古平1名、仁木1名、渡島1名、オホーツク1名、宗谷1名、日高1名、道外1名	
●リハビリテーション実施単位数(入院)	163,129
●訪問リハビリテーション実施単位数	19,542
●デイケア延べ利用者数	4,682名
●介護予防啓発普及事業(介護予防センター定山溪)	
開催回数	127回
延べ参加者数	2,462名
●職員数	355名

泊村立茅沼診療所

地域医療

●外来延べ患者数	7,465名
●保健予防活動	2,580名
予防接種	1,173名
ピロリ菌・ヘパシノーゲン検査	2名
生活習慣病健診	1名
肝炎ウイルス検査	6名
特定健診	32名
骨粗しょう症検診	10名
特定健康診査事後(血液検査)	1名
学校等健診	507名
各種がん検診(肺、大腸、前立腺)	8名
企業健診	831名
各種ドック検診(脳、腹部、心臓)	6名
エキノコックス検診	3名
●主治医意見書作成	86名
●職員数	8名

喜茂別町立クリニック	地域医療
●延べ患者数 …… 10,515名 (外来8,861名、在宅94名、施設1,560名) ●保健予防活動 …… 2,194名 予防接種 …… 1,614名 事業所健診 …… 122名 バースデイ健診 …… 107名	学校内科健診 …… 135名 学校心臓健診 …… 28名 保育園健診 …… 82名 乳幼児健診 …… 106名 ●職員数 …… 11名

西円山敬樹園	介護
●平均要介護度 …… 3.8 (入所・西円山敬樹園のみ) ●1日当たり実績 入所 …… 115.7名／日 (定員123名) グループホーム西円山の丘 …… 25.9名／日(定員27名) 短期入所生活介護 …… 7.3名／日(定員14名) 通所介護 …… 23.1名／日(定員30名) 訪問介護 …… 29.1回／日 ●居宅介護支援 …… 延べ2,051件 ●介護予防センター延べ相談件数 …… 円山87件、曙・幌西77件 ●研修参加・実施状況 外部研修 …… 参加129回 内部研修 …… 開催全体15回、各部署71回 ●職員数 …… 161名	●平均要介護度 …… 4.2 (入所) ●1日当たり実績 入所 …… 79.1名／日 (定員80名) 短期入所生活介護 …… 7.8名／日(定員10名) 通所介護 …… 54.3名／日(定員65名) 認知症対応型通所介護 …… 8.7名／日(定員12名) ●居宅介護支援 …… 延べ1,611件 ●介護予防センター延べ相談件数 …… 55件 ●障がい者相談支援事業 …… 5,888件 ●研修参加・実施状況 外部研修 …… 参加105回(溪仁会グループ・キャリア支援課主催研修含む)、 延べ307名参加、共生型地域福祉拠点セミナーなど 内部研修 …… 開催27回、延べ436名参加、感染対策研修、CSRビデオ研修、 認知症ケアと地域包括ケアシステム研修などを実施 ●職員数 …… 126名

月寒あさがおの郷	介護
●平均要介護度 …… 3.8 (入所) ●1日当たり実績 入所 …… 76.6名／日 (定員80名) 短期入所生活介護 …… 3.7名／日(定員8名) 通所介護 …… 35.9名／日(定員45名) ●研修参加・実施状況 外部研修 …… 法人本部・溪仁会グループ主催研修含め延べ224名、日本褥瘡 学会北海道地方会学術集会などで発表 内部研修 …… 虐待防止研修、接遇研修、感染予防など実施 ●職員数 …… 101名	●平均要介護度 …… 4.5 (入所) ●1日当たり実績 入所 …… 28.2名／日 (定員29名) 小規模多機能型居宅介護 …… 28.8名／日(登録定員29名) 認知症対応型通所介護 …… 0.3名／日(定員3名) ●研修参加・実施状況 外部研修 …… 参加34回、延べ43名参加、小規模多機能型サービス等計画作成 担当者研修、介護ロボット導入活用研修会など 内部研修 …… 開催10回(うち外部講師3回依頼)、延べ208名参加、認知症の 理解、他施設見学など ●職員数 …… 44名

きもべつ喜らめきの郷	介護
●平均要介護度 …… 3.7 (入所) ●1日当たり実績 入所 …… 72.8名／日 (定員80名) 訪問介護 …… 2.0回／日 ●研修参加・実施状況 外部研修 …… 参加56回、延べ91名参加、認知症介護実践研修、全道老人 福祉施設研究大会など 内部研修 …… 開催23回、延べ652名参加(るすつ銀河の杜と合同)、看取り ケア、リスクマネジメントなど ●職員数 …… 55名	●平均要介護度 …… 3.3 (入所) ●1日当たり実績 入所 …… 27.9名／日 (定員29名) 通所介護 …… 5.94名／日(定員10名) ●居宅介護支援 …… 延べ536件 ●研修参加・実施状況 外部研修 …… 参加25回、延べ33名参加、内容はきもべつ喜らめきの郷と同様 内部研修 …… きもべつ喜らめきの郷と合同 ●職員数 …… 30名

岩内ふれ愛の郷	介護
●平均要介護度 …… 3.8 (入所) ●1日当たり実績 入所 …… 49.9名／日 (定員50名) 短期入所生活介護 …… 7.2名／日(定員10名) ●研修参加・実施状況 全職員参加の施設内(一部施設外)研修を毎月開催。記録記載、AED、腰痛 予防、事故発生防止など ●職員数 …… 47名	●平均要介護度 …… 2.9 (入所) ●1日当たり実績 入所 …… 99.3名／日 (定員100名) 通所リハビリテーション …… 35.7名／日(定員50名) 訪問看護 …… 12.6名／日 ●居宅介護支援 …… 延べ309件 ●地域包括支援センター延べ相談件数 …… 197件 ●研修参加・実施状況 新入職員研修6名、アンガーマネジメント研修45名など延べ66名参加 ●職員数 …… 149名

コミュニティホーム白石	社会復帰・生活支援
●平均要介護度 …… 2.8 (入所・コミュニティホーム白石のみ) ●1日当たり実績 入所 …… 92.9名／日 (定員100名)、白石の郷…17.3名／日(定員18名) 短期入所生活介護 …… 16.7名／日(定員19名) 通所リハビリテーション …… 40.6名／日(定員50名) 通所介護 …… (白石の郷)37.3名(定員50名) 訪問介護 …… 27.4回／日 訪問リハビリテーション …… 3.7回／日 ●居宅介護支援 …… 延べ2,170件 ●地域包括支援センター延べ相談件数 …… 1,336件 ●介護予防センター延べ相談件数 …… 白石中央50件 ●研修参加・実施状況 外部研修 …… 溪仁会グループ本部主催研修延べ41名、全国老人保健施設 大会4名、北海道抑制廃止研修会1名他多数の研修会に参加 内部研修 …… 防災研修会42名、自動車事故防止セミナー52名参加他 ●職員数 …… 200名	●平均要介護度 …… 3.2 (入所) ●1日当たり実績 入所 …… 87.1名／日 (定員90名) 通所リハビリテーション …… 29.8名／日(定員45名) 訪問リハビリテーション …… 8.5名／日 訪問介護 …… 7.7回／日 ●居宅介護支援 …… 延べ1,234件 ●研修参加・実施状況 外部研修 …… 参加59回(溪仁会グループ本部主催研修含む)、延べ77名、抑制 廃止研修会、介護福祉士実習指導者養成研修などに参加 内部研修 …… 開催8回、延べ236名、接遇マナー研修、感染症対策研修など ●職員数 …… 101名

コミュニティホーム美唄	社会復帰・生活支援
●平均要介護度 …… 2.6 (入所) ●1日当たり実績 入所 …… 78.9名／日 (定員80名) 通所リハビリテーション …… 53.4名／日(定員65名) ●研修参加・実施状況 内外合わせて29回、延べ50名参加。溪仁会グループ研修会、老健協主催研修会など ●職員数 …… 95名	●平均要介護度 …… 1.0 (入所) ●1日当たり実績 入所 …… 98.3名／日 (うち特定入居者41.7名／日、定員100名) ●研修参加・実施状況 27回、延べ58名参加、外部は全国軽費老人ホーム協議会など、内部は高齢者 虐待防止研修など ●職員数 …… 20名

美唄市東地区生活支援センター すまいる	生活支援・通所介護
●平均要介護度 …… 1.6 (通所介護) ●1日当たり実績 通所介護 …… 18.4名／日 訪問介護 …… 48.7名／日 ●居宅介護支援 …… 延べ1,689件 ●福祉入浴 …… 2,539名 ●高齢者世話付住宅生活援助員派遣事業 …… 3,973件 ●研修参加・実施状況 集合研修延べ14名参加、内部研修延べ364名参加、訪問介護事業所内研修 月1回、通所介護・居宅介護事業所内研修会2カ月に1回 ●職員数 …… 45名	●平均要介護度 …… 1.9 (通所介護) ●1日当たり実績 短期入所 …… 10.3名／日 (定員9名) 通所介護 …… 27.3名／日(定員30名) 訪問介護 …… 7.0名／日 ●居宅介護支援 …… 延べ110件／月 ●気仙沼市大島地域包括支援センター延べ相談件数 …… 457件 ●地域交流 ミニデイサービス5地区延べ63名参加、公民館祭り・大島地区敬老会・大島地 区福祉大会など ●職員数 …… 40名

青葉ハーティケアセンター	生活支援・通所介護
●平均要介護度 …… 1.7 (通所介護) ●1日当たり実績 通所介護 …… 38.2名／日 (定員65名) 訪問看護 …… 17.0名／日 小規模多機能型居宅介護 …… 24.8名／日(定員29名) ●居宅介護支援 …… 延べ1,707件 ●研修参加・実施状況 ケアマネジメントに関する技術、北海道共生ケアネットワーク記念講演、他多数実施 ●職員数 …… 53名	●平均要介護度 …… 1.9 (通所介護) ●1日当たり実績 通所介護 …… 64.4名／日 (定員75名) ●居宅介護支援 …… 延べ1,561件 ●障がい者相談支援事業 …… 58件 ●研修参加・実施状況 外部は認知症を支える地域連携の実践研修、介護家族支援研修などに参加、 内部はCSR研修、業務内容勉強会を実施 ●職員数 …… 43名

株式会社ソーシャル	在宅支援・生活支援
●訪問介護利用者 …… 3,660名 (月平均305名) 延べ利用回数 …… 32,469回(月平均2,705回) ●介護予防訪問介護利用者 …… 4,456名(月平均371名) ●職員数 …… 96名 (うちパート76名)	

医療法人稲生会	身体障がい者支援
●延べ患者数 …… 193名／月 (訪問診療4,059件、外来159件、歯科414件) ●地域別患者数 札幌市 …… 154名 その他 …… 39名 ●訪問看護 …… 400件／月 ●訪問介護 …… 50名／月 ●医療型短期入所 …… 139件／月 ●職員数 …… 64名	

組織の持続的成長を実現し 未来へとつながる社会を創造するために

溪仁会グループ最高責任者
医療法人溪仁会 理事長

田中繁道

時代の変革の波を新たな飛躍の機会ととらえる

ここ数年、医療や保健、福祉などの社会保障制度は大きな転換点を迎えています。溪仁会グループは、押し寄せる変革の波を次の飛躍へのチャンスととらえ、積極的な事業展開や組織体制の見直しなどを進めています。その核となる中期経営計画の「ビジョン溪仁会2020」では、各病院や施設、事業所がそれぞれの「あるべきすがた」を策定し、実現に向けて取り組んでいます。

2017年度を振り返りますと、札幌溪仁会リハビリテーション病院の開院や手稲溪仁会病院の病棟改修など、数年にわたった大型プロジェクトが完了し、経営の質がより問われる年となりました。各組織や部門では、管理体制の向上やコストの改善に努め、経営基盤の強化を進めています。

各病院や施設、事業所の活動では、医療報酬と介護報酬の同時改定や第3期の医療費適正化計画などを見据えた対応に重点が置かれました。札幌西円山病院と定山溪病院が、外来診療や訪問診療の対応に力を入れているのもその一例です。また、社会福祉法人溪仁会は、次の中期ビジョンとして「ビジョン福祉40」を策定し、新たなプロジェクトをスタートさせています。

こうしたプロジェクトの遂行において、当グループではトップダウンではなく、それぞれの組織が自主的に取り組むボトムアップ形式を重視しています。経営層は指針となる大きな目標を示し、各組織はその実現に向けて自ら考え行動することで、ビジョンと実践が有機的に調和し、より大きな価値を生み出すと考えています。

スケールメリットを活かし組織の持続的な成長を図る

2018年度の経営目標では、地域包括ケアシステムにおける役割の明確化、提供するサービスの質の向上と組織の持続可能性を担保する経営の質との両立、人財の育成・管理体制の確立などを重点項目に掲げています。あるべきすがたの達成に向けた長期的な視点と、時流を読み、迅速に対応する柔軟性を併存させながら、持続的成長に挑んでいます。

地域包括ケアシステムについては、グループ内のシームレスな垂直連携と地域との密接な水平連携を展開することによって、自ずと構築できるものと考えています。地域包括ケアシステムを牽引する存在となるためにも、それぞれの組織があるべきすがたを追求しながら、連携の輪を広げていくことをめざしています。

近年は、医療や福祉のサービスの質においても、客観的な根拠が求められています。提供したサービスによってどれだけの成果が得られたのかを適切に評価するため、各病院ではデータの収集や解析を始めています。今後はグループ全体でデータを蓄積・解析し、サービスの質の根拠を明確にするとともに、得られたビッグデータをサービスの向上などに活用する方針です。

課題となっているのが、5,000人近い職員一人ひとりの能力を活かす人財管理や育成のあり方です。当グループではパーソナルデータの集約を進め、人財育成や能力の適正な評価などに役立てる考えです。また、数多く実施している研修についても、その効果を測定する必要があります。研修をより有効なものにし、医療人、福祉人としての成長を手助けするために、研修効果の評価を検討しています。

サービスの質を守りながら働き方改革に取り組む

2017年に政府が打ち出した「働き方改革」は、医療や保健、福祉の分野でも、早急に取り組むべき課題となっています。当グループでは各病院や施設、事業所において労働環境の改善を図り、職員の安全や健康に配慮した職場づくりを進めています。

一方で、対応の難しさを感じているのが、労働時間の問題です。現在、議論されているのは、長時間労働の是正が中心ですが、医療や介護の仕事には人の生活や生命を支えるという使命があり、単純に労働時間を区切ることが難しい分野といえます。また、医療や介護の専門職は経験を重ねながらスキルを高めていくため、勤務時間が短縮されることでノウハウを養う機会が減ることを懸念する声も聞かれます。しかし、社会システムの変化に伴って、私たちも考え方を変えていく必要があります。

職員が健康で、働く喜びや楽しさを感じられる職場づくりを推進することが、地域の医療や保健、福祉を守ることにつながります。今後は、コンプライアンスに基づきながら、サービスの質を落とすことなく仕事の効率化を図り、長時間労働の是正と職員の負担の軽減に取り組んでいきます。

共生社会の実現に向けて中核的な役割を果たすために

最近「共生社会」という言葉をよく耳にします。狭義では、障がいのある人でも積極的な参加や貢献ができる社会、という意味で使われていますが、当グループがめざすのは、あらゆる人たちが社会とかわり、生き生きと健康に暮らすことができるコミュニティの構築、さらに言うと、医療や保健、福祉のサービスがシームレスに提供されるまちづくりです。

私たちが理想とするコミュニティを実現するためには、各病院や施設、事業所が積極的にまちづくりに参画し、その一翼を担うことが必要です。札幌溪仁会リハビリテーション病院が取り組むケアタウン構想は、まさに医療や福祉を中心としたまちづくりの先駆けであり、地域包括ケアシステムのモデルとなる事例といえます。

当グループは社会を支える「医療・保健・福祉」の複合事業体として、CSR経営による戦略的な組織運営に取り組んでまいりました。公益性や事業の透明性、説明責任などの義務を果たし、多様なニーズに質の高いサービスの提供をもって応えることで、地域社会から信頼される組織に成長できたと自負しています。今後は、進取の組織風土や高いプロフェッショナル・マインドといった“溪仁会らしさ”を引き継ぎながら、ブランドの価値をより一層高めていくことが私たちの責務です。北海道はもとより、全国からも認めていただける組織をめざし、これからも進化を続けてまいります。





東洋学園大学
グローバル・コミュニケーション学部 特任教授
日本経営倫理学会 理事

荻野 博司 (おぎの・ひろし)

【プロフィール】朝日新聞ニューヨーク支局員、論説副主幹などを経て、2014年より東洋学園大学グローバル・コミュニケーション学部教授、18年より特任教授。同年より苫小牧埠頭株式会社社外監査役。ほかに特定非営利活動法人「日本コーポレート・ガバナンス・ネットワーク」執行理事、日本経営倫理学会理事。著書に『日米摩擦最前線』『問われる経営者』『英国の企業改革』（共著訳）など。

◆ 地域へのまなごし

一般の会社でも、医療法人や社会福祉法人でも、その活動の基盤となるのは組織を取り巻く地域です。周辺の社会や人々から孤立しては、長い期間にわたって持続する活動は望めません。2018年9月の北海道胆振東部地震では医療施設が住民の心のよりどころとなりました。一方、病院やケアセンターで困りごとがあったときに、市民が助けの手を差し伸べてくれることもあるでしょう。

グループの活動の手引きでもあるISO26000が「コミュニティへの参画」を中核主題の一つとしているのは、当然といえます。

今回のCSRレポートが地域との関わりを大きなテーマにしたのは、時宜にかなったものでした。自治体や地域活動のリーダーをお招きしての座談会を興味深く読みました。さっそく患者さんにも参加してもらう「歌の会」のアイデアが飛び出しました。「この病院に来れば何でも相談に乗ってもらえる」という地域に開かれた施設を目指すという決意も示されました。大いに期待したいものです。

町内会との協同作業で信頼関係を築いたという西門山ハーティケアの丘の皆さんからの報告も興味深いものです。町内会長さんのコメントにあるとおり、「若い方の姿が地域にあるのはそれだけでうれしい」のです。当たり前でなかなか気付きませんが、病院や介護施設などは働き盛りの人々の職場です。その強みを地域と共有することは大きな意義があります。

◆ 課題も率直に

地域の交流に限りませんが、古くからある壁を破るような試みは長く続かなければ意味がありません。リハビリテーション研修会の立ち上げに関わり、研修委員として運営に関わってきた言語聴覚士の方は「一過性の交流に終わらせることなく、その後の関係に結び付けていくには、何が必要なのか」と自問しています。この課題はグループ全体で考えていてもらいたいものです。

もう一つ大切なのが、ネガティブ情報です。

ともすればプラス面ばかりを強調しがちですが、大切なのはこれから解決すべきテーマを見いだすことです。介護アシスタント事業を紹介した記事では、アシスタントに参加した方の声が収録されていました。そのなかに「同じことを行うのに、職員によって対応が違う時があり戸惑う」「職員側の理解の統一を図ってほしい」という指摘がありました。

耳の痛い、でも貴重な直言です。介護のプロでない方に力になってもらうには、お願いする側がしっかりとしなければならぬ。高齢化社会が進むなか、アシスタントに頼る仕事は増えるはずです。この声を生かして、より働きやすい環境を整えることはグループのためにも欠かせないことでしょう。

◆ 今後も競い合って

さまざまな領域で、意欲的な活動が進められていることを知ることができました。例えば、絵本「はくのおとうとは機械の鼻」を制作したり、急速な高齢化が迫っている中国・江蘇省の関係者に我々の体験を伝える交流活動を深めたり、将来の医療の担い手を育む「ブラック・ジャック セミナー」を開いたり。

このCSRレポートは、さまざまな知恵の宝庫です。大いに参考にして、『「ずーっと。」』人と社会を支える」グループとしての実力をさらに高めていってほしいものです。

ISO26000対比表

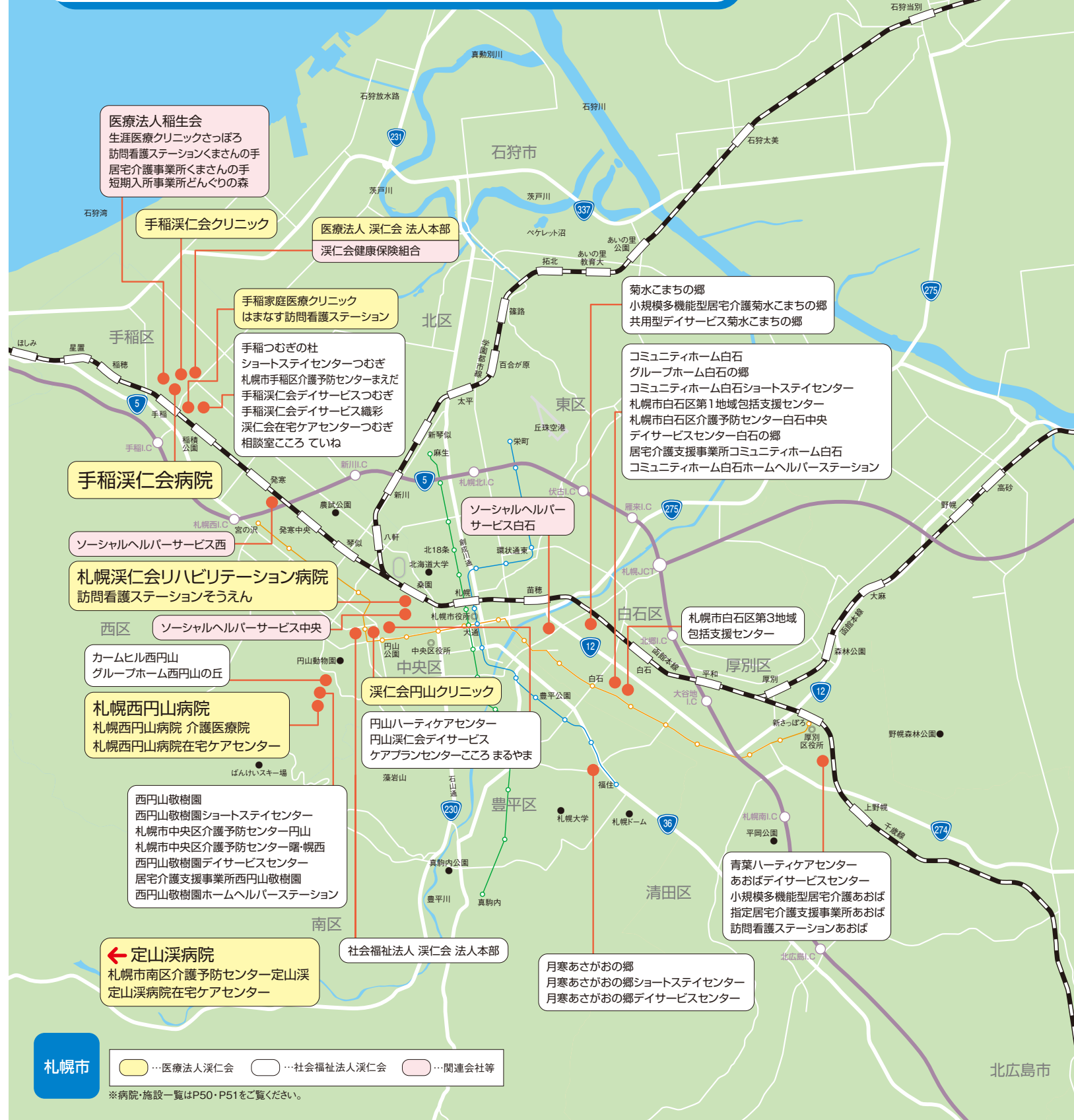
浜仁会グループでは、社会的責任の国際規格であるISO26000を手引きとして、より確実にCSR経営を実行することをめざしています。CSRレポート2018に掲載した取り組みを、7つの中核主題に分類すると以下の通りになります。

中核主題	課題	浜仁会グループ 行動基準項目	取り組み内容
組織統治	組織統治	すべて	浜仁会グループの社会的使命(P06) 浜仁会グループの事業理念(P07) 札幌商工会議所のCSR経営表彰を受賞(P34) 社会福祉法人浜仁会の描く未来(P36) 組織の持続的成長を実現し未来へとつながる社会を創造するために(P44)
人権	課題1: デューディリジェンス 課題2: 人権に関する危機的状況 課題3: 加担の回避 課題4: 苦情解決 課題5: 差別及び社会的弱者 課題6: 市民的及び政治的権利 課題7: 経済的、社会的及び文化的権利 課題8: 労働における基本的原則及び権利	③人権尊重	Human Story ⑥ 法人の未来を考えるプロジェクトに参加するセラビスト(P31) Close Up Challenge ⑤ 介護現場と地域のマンパワーのマッチングへ(P32)
労働慣行	課題1: 雇用及び雇用関係 課題2: 労働条件及び社会的保護 課題3: 社会対話 課題4: 労働における安全衛生 課題5: 職場における人材育成及び訓練	⑤教育研修 ⑪職場環境	Human Story ⑤グループ横断研修を運営するセラビスト(P30) Close Up Challenge ⑥介護や福祉を通じた国際交流の取り組み(P33) メンタルヘルス・ハラスメント・労務管理研修会を開催(P34) 日本心不全学会学術集会の特別企画で優勝(P35) AED・CPRトレーニングキットを導入し全職員に研修(P35)
環境	課題1: 汚染の予防 課題2: 持続可能な資源の利用 課題3: 気候変動の緩和及び気候変動への適応 課題4: 環境保護、生物多様性、及び 自然生息地の回復	⑩環境保護	おたるドリームビーチ清掃活動(P28) 電気自動車を地域活動に活用(P28) リングブルを回収して車いすを寄贈(P29) 未来の森をつくる植樹会(P29)
公正な事業慣行	課題1: 汚職防止 課題2: 責任ある政治的関与 課題3: 公正な競争 課題4: バリューチェーンにおける社会的責任の推進 課題5: 財産権の尊重	④順法精神	Close Up Challenge ③ 地域の医療を共に支える医療連携の取り組み(P22)
消費者課題	課題1: 公正なマーケティング、事実に即した 偏りのない情報、及び公正な契約慣行 課題2: 消費者の安全衛生の保護 課題3: 持続可能な消費 課題4: 消費者に対するサービス、支援、 並びに苦情及び紛争の解決 課題5: 消費者データ保護及びプライバシー 課題6: 必要不可欠なサービスへのアクセス 課題7: 教育及び意識向上	①顧客満足 ②品質管理 ⑤技術変革 ⑦チームワーク ⑧情報公開 ⑫個人情報保護	Human Story ①心臓血管外科の低侵襲手術に取り組む医師(P10) Human Story ②健診の質向上をめざす臨床検査技師(P11) Close Up Challenge ① 介護ロボットの普及・啓発で福祉の未来を支える(P12) Close Up Challenge ② 高度急性期を担う医療機関としての高みをめざす(P13) 認知症ケアサポートチームの活動(P14) 手稲浜仁会病院ハートチーム TAVI100症例を達成(P14) 生活習慣病・高齢者総合外来を開設(P15) 放射線防護対策事業と岩内町との災害時協定締結(P15)
コミュニティへの 参画及び コミュニティの 発展	課題1: コミュニティへの参画 課題2: 教育及び文化 課題3: 雇用創出及び技能開発 課題4: 技術の開発及び技術へのアクセス 課題5: 富及び所得の創出 課題6: 健康 課題7: 社会的投資	⑨地域重視	ステーキホルダーダイアログ 誰もが安心して暮らし続けられる地域をめざして(P16) Human Story ③地域と連携し介護予防事業に取り組む保健師(P20) Human Story ④地域で神経難病の啓発活動を行う医師(P21) Close Up Challenge ④ 地域の方々と手を携え、安心して暮らせる環境づくりを(P23) 訪問リハビリテーションさくら「さくらの会」を開催(P24) 絵本「はくのおとうとは機械の鼻」を制作(P24) 4町村健康支援事業で講演会を実施(P25) アルゼンチンから作業療法士の実習を受け入れ(P25) 院内見学ツアーとブラック・ジャック セミナー(P26) 留寿都高等学校1年生の施設見学受け入れと交流(P26) 地域交流の場「こまちテラス」をスタート(P27) 第13回子ども在宅ケアネットワーク開催(P27)

地域とともに、医療・保健・福祉を見つめて

溪仁会グループマップ

溪仁会グループは、札幌市を中心に道央・道南・道外（気仙沼市）に事業所を展開しています。
質の高い医療・保健・福祉の提供を通して、地域の皆さんに安心と満足を提供することをめざしています。



溪 仁 会 グ ル ー プ ー 覧

治療とケア	最新の医療技術と機器を備え総合医療を提供しています。救急指定医療機関として、24時間・365日あらゆる疾患・外傷の患者さんを受け入れています。 高度急性期・専門医療 手稲溪仁会病院 札幌市手稲区前田1条12丁目1-40 ☎011-681-8111 手稲溪仁会クリニック 札幌市手稲区前田1条12丁目2-15 ☎011-685-3888 手稲家庭医療クリニック 札幌市手稲区前田2条10丁目1-10 ☎011-685-3920
-------	---

リハビリと療養	看護・介護・リハビリテーションを中心とした医療サービスを提供しています。 回復期医療 札幌溪仁会リハビリテーション病院 札幌市中央区北10条西17丁目36-13 ☎011-640-7012 回復期・慢性期医療 札幌西円山病院 札幌市中央区円山西町4丁目7-25 ☎011-642-4121 慢性期医療 定山溪病院 札幌市南区定山溪温泉西3丁目71 ☎011-598-3323
---------	--

保 健	健康のチェックと病気の早期発見、健康管理、予防に関するサービスを提供しています。 人間ドック・健康診断施設 溪仁会円山クリニック 札幌市中央区大通西26丁目3-16 ☎011-611-7766
-----	---

介 護	●介護医療院 住まいと生活を医療が支える居宅系施設です。 札幌西円山病院 介護医療院 札幌市中央区円山西町4丁目7-25 ☎011-642-4121
	●介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム) 日常生活に常時介護が必要で、自宅では介護が困難なお年寄りが入所し、食事・入浴・排せつなどの日常生活の介護や健康管理が受けられます。 西円山敬樹園 札幌市中央区円山西町4丁目3-20 ☎011-631-1021 岩内ふれ愛の郷 岩内郡岩内町字野束69-4 ☎0135-62-3131
	●介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム) 10名が1つの生活単位(ユニット)として暮らし、顔なじみのスタッフが日常生活のお手伝いをします。 月寒あさがおの郷 札幌市豊平区月寒西1条11丁目2-35 ☎011-858-3333 きもべつ喜らめきの郷 虻田郡喜茂別町字伏見272-1 ☎0136-33-2711 手稲つむぎの杜 札幌市手稲区前田2条10丁目1-7 ☎011-685-3726
	●地域密着型介護老人福祉施設 定員29名以下の小規模な介護老人福祉施設で、介護・看護・機能訓練等のサービスを提供するとともに地域や家庭との結びつきを重視した施設です。 菊水こまちの郷 札幌市白石区菊水上町4条3丁目94-64 ☎011-811-8110 るすつ銀河の杜 虻田郡留寿都村字留寿都186-95 ☎0136-46-2811

社会復帰生活支援	●介護老人保健施設 病状の安定期にあり、入院治療をする必要のない方に医療・保健・福祉の幅広いサービスを提供する、介護保険適用の施設です。 コミュニティホーム白石 札幌市白石区本郷通3丁目南1-35 ☎011-864-5321 コミュニティホーム八雲 二海郡八雲町栄町13-1 ☎0137-65-2000 コミュニティホーム美唄 美唄市東5条南7丁目5-1 ☎0126-66-2001 コミュニティホーム岩内 岩内郡岩内町字野束69-26 ☎0135-62-3800
	●軽費老人ホーム(ケアハウス) 食事の提供、入浴の準備、緊急時の対応、健康管理および相談助言を基本サービスとして、自立の維持ができる施設です。 カムビル西円山 札幌市中央区円山西町4丁目3-21 ☎011-640-5500
	●認知症対応型共同生活介護(グループホーム) 認知症の方が、小規模な生活の場において食事の支度・掃除・洗濯などを共同で行い、家庭的な雰囲気の中で穏やかな生活を過ごせるよう支えます。 グループホーム 白石の郷 札幌市白石区本郷通3丁目南1-16 ☎011-864-5861 グループホーム 西円山の丘 札幌市中央区円山西町4丁目3-21 ☎011-640-2200
	●短期入所生活介護(ショートステイ) 事情により介護ができないときに短期間入所していただき、ご家族に代わって食事・入浴等日常生活のお世話をいたします。 西円山敬樹園ショートステイセンター 札幌市中央区円山西町4丁目3-20 ☎011-631-1021 コミュニティホーム白石ショートステイセンター 札幌市白石区本郷通3丁目南1-35 ☎011-864-5321 おおしまショートステイセンター 宮城県気仙沼市廻館55-2 ☎0226-26-2272 月寒あさがおの郷ショートステイセンター 札幌市豊平区月寒西1条11丁目2-35 ☎011-858-3333 岩内ふれ愛の郷ショートステイセンター 岩内郡岩内町字野束69-4 ☎0135-62-3131 ショートステイセンターつむぎ 札幌市手稲区前田2条10丁目1-7 ☎011-685-3726

介護予防在宅支援	●地域包括支援センター 高齢者の誰もが、住み慣れた地域でその人らしい尊厳ある生活を継続できるよう支援しています。 札幌市白石区 第1地域包括支援センター 札幌市白石区本郷通3丁目南1-35 ☎011-864-4614 岩内郡岩内町字野束69-26 ☎0135-61-4567 札幌市白石区 第3地域包括支援センター 札幌市白石区本郷通9丁目南3-6 ☎011-860-1611 気仙沼市大島地域包括支援センター 宮城県気仙沼市廻館55-2 ☎0226-25-8570
	●介護予防センター・介護予防サロン 高齢になっても、住み慣れた地域で、その人らしい自立した生活が継続できるように介護予防事業を行っています。 札幌市中央区 介護予防センター円山 札幌市中央区円山西町4丁目3-20 ☎011-633-6056 札幌市南区 介護予防センター定山溪 札幌市南区定山溪温泉西3丁目71 ☎011-598-3311 札幌市中央区 介護予防センター曙・幌西 札幌市中央区円山西町4丁目3-20 ☎011-633-6055 札幌市手稲区 介護予防センターまえた 札幌市手稲区前田2条10丁目1-7 ☎011-685-3141 札幌市白石区 介護予防センター白石中央 札幌市白石区本郷通3丁目南1-35 ☎011-864-5535 介護予防サロンりはる 岩内郡岩内町字万代19-7 ☎0135-62-4165

●通所介護(デイサービス) 要支援1・2、要介護1～5と認定された40歳以上の方を対象に、食事や入浴、機能訓練や趣味活動などのサービスを提供します。 あおばデイサービスセンター 札幌市厚別区青葉町4丁目10-27 ☎011-893-5000 西円山敬樹園デイサービスセンター 札幌市中央区円山西町4丁目3-20 ☎011-640-5522 デイサービスセンターおおしま 宮城県気仙沼市廻館55-2 ☎0226-26-2272	円山溪仁会デイサービス 札幌市中央区北1条西19丁目1-2 ☎011-632-5500 デイサービスセンター白石の郷 札幌市白石区本郷通3丁目南1-16 ☎011-864-3100 月寒あさがおの郷デイサービスセンター 札幌市豊平区月寒西1条11丁目2-35 ☎011-858-3333	手稲溪仁会デイサービスつむぎ 札幌市手稲区前田2条10丁目1-7 ☎011-685-2568 デイサービスセンターすまいる 美唄市東4条南5丁目1-4 ☎0126-66-2525 るすつ銀河の杜デイサービスセンター 虻田郡留寿都村留寿都186-18 ☎0136-46-2811
--	---	--

●小規模多機能型居宅介護 小規模多機能型居宅介護菊水こまちの郷 札幌市白石区菊水上町4条3丁目94-64 ☎011-811-8110	小規模多機能型居宅介護あおば 札幌市厚別区青葉町4丁目10-27 ☎011-895-5000
---	--

●認知症対応型通所介護(デイサービス) 手稲溪仁会デイサービス織彩(しきさい) 札幌市手稲区前田2条10丁目1-7 ☎011-685-3328	共用型デイサービス菊水こまちの郷 札幌市白石区菊水上町4条3丁目94-64 ☎011-811-8110
--	---

●指定居宅介護支援事業所 介護支援専門員(ケアマネジャー)が、介護保険サービス利用の申請手続きや、ケアプランの作成など介護保険に関するさまざまな相談に応じています。 溪仁会在宅ケアセンターつむぎ 札幌市手稲区前田2条10丁目1-7 ☎011-685-2322 居宅介護支援事業所コミュニティホーム白石 札幌市白石区本郷通3丁目南1-35 ☎011-864-2252 居宅介護支援事業所すまいる 美唄市東4条南5丁目1-4 ☎0126-66-2525 ケアプランセンターさつき 岩内郡岩内町字野束69-26 ☎0135-67-7801	札幌西円山病院在宅ケアセンター 札幌市中央区円山西町4丁目7-25 ☎011-642-5000 指定居宅介護支援事業所 西円山敬樹園 札幌市中央区円山西町4丁目3-20 ☎011-644-7650 居宅介護支援事業所やくも 二海郡八雲町栄町13-1 ☎0137-65-2121 ケアプランセンターこころ まるやま 札幌市中央区北1条西19丁目1-2 ☎011-640-6622	定山溪病院在宅ケアセンター 札幌市南区定山溪温泉西3丁目71 ☎011-598-5500 指定居宅介護支援事業所あおば 札幌市厚別区青葉町4丁目10-27 ☎011-893-8761 おおしまハーティケアセンター 宮城県気仙沼市廻館55-2 ☎0226-26-2272 ケアプランセンターこころ ようてい 虻田郡留寿都村留寿都186-18 ☎0136-46-2811
--	--	---

●札幌市障がい者相談支援事業所・札幌市障がい者住宅入居等支援事業所 障がいがあっても、住み慣れた地域で自立した生活ができるよう、さまざまな相談に応じています。 相談室こころ ていね 札幌市手稲区前田2条10丁目1-7 ☎011-685-2861
--

●訪問看護ステーション 看護師がご自宅に訪問し、主治医の指示に基づき、医療処置・医療機器を必要とされる方の看護を行っています。 はまなす訪問看護ステーション 札幌市手稲区前田2条10丁目1-10 ☎011-684-0118 訪問看護ステーションあおば 札幌市厚別区青葉町4丁目10-27 ☎011-893-5500 訪問看護ステーション岩内 岩内郡岩内町字野束69-26 ☎0135-62-5030 訪問看護ステーションそうえん 札幌市中央区北10条西17丁目1-4 ☎011-688-6125

●訪問介護(ホームヘルパーステーション) ご家族で介護を必要とされる方が、快適な生活を過ごせるようご家庭に訪問し、日常生活をサポートします。 西円山敬樹園ホームヘルパーステーション 札幌市中央区円山西町4丁目3-21 ☎011-644-6110 ホームヘルパーステーションおおしま 宮城県気仙沼市廻館55-2 ☎0226-26-2272 ソーシャルヘルパーサービス白石 札幌市白石区菊水8条2丁目2-6 ☎011-817-7270	コミュニティホーム白石ホームヘルパーステーション 札幌市白石区本郷通3丁目南1-35 ☎011-864-2008 コミュニティホーム八雲ホームヘルパーステーション 二海郡八雲町栄町13-1 ☎0137-65-2122 ソーシャルヘルパーサービス中央 札幌市中央区北8条西18丁目1-17 ☎011-633-1771	ホームヘルパーステーションすまいる 美唄市東4条南5丁目1-4 ☎0126-66-2525 ケアセンターこころ ようてい 虻田郡喜茂別町字伏見272-1 ☎0136-33-2112 ソーシャルヘルパーサービス西 札幌市西区発寒8条10丁目4-20 ☎011-669-3530
---	---	---

地域医療	公立診療所の指定管理者として地域の医療を支えます。 泊村立茅沼診療所 古宇郡泊村大字茅沼村711-3 ☎0135-75-3651 喜茂別町立クリニック 虻田郡喜茂別町字喜茂別13-3 ☎0136-33-2225
------	--

身体障がい者支援 身体障がいを抱えた方の在宅療養を包括的に支援します。 医療法人稲生会 ■生涯医療クリニックさっぽろ ■訪問看護ステーションくまさんの手 ■居宅介護事業所くまさんの手 ■短期入所事業所どんぐりの森 ☎011-685-2799 ☎011-685-2791 ☎011-685-2791 ☎011-685-2791 札幌市手稲区前田1条12丁目357-22(住所共通)

医療法人溪仁会 法人本部 〒006-0811 札幌市手稲区前田1条12丁目2-30 溪仁会ビル3F／☎ 011-699-7500(代表) 社会福祉法人溪仁会 法人本部 〒064-0823 札幌市中央区北3条西28丁目2-1 サンビル5F／☎ 011-640-6767	溪仁会グループ
---	----------------

「ずーっと。」

人と社会を支える



私たち溪仁会グループは、
社会的責任（CSR）経営を推進します。
高い志と卓越した医療・保健・福祉サービスにより、
「一人ひとりの生涯にわたる安心」と
「地域社会の継続的な安心」を支えます。

溪仁会グループ

〒006-0811 札幌市手稲区前田1条12丁目2番30号 溪仁会ビル3F
TEL 011-699-7500 FAX 011-699-7501

[溪仁会グループホームページ](#)

溪仁会グループ

検索

<http://www.keiinkai.com>